

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q001

医薬品の本質 | ○×

問題：医薬品は有効性が確認されていれば、安全性に問題があっても使用が認められる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：医薬品は有効性と安全性の両方が確保されて初めて使用が認められる。

要点：医薬品は有効性と安全性のバランスの上に成り立っており、期待される有益な作用（主作用）以外に副作用が生じるこ…

Q002

医薬品の本質 | 4択

問題：医薬品について正しいものはどれか。

選択肢

ア. 人体に対して化学的・生理的な作用をもたらすことを目的として製造される

イ. 効果が認められれば副作用がなくなることはない

ウ. 食品と同じ製造基準が適用される

エ. すべての人に同じ効果・副作用が現れる

答え・解説

正答：ア. 人体に対して化学的・生理的な作用をもたらすことを目的として製造される

超簡単な解説：医薬品は食品と異なり、人体に化学的・生理的な作用をもたらすことを目的として製造・承認される。

要点：医薬品は人体に対して化学的・生理的な作用をもたらすことを目的として製造され、食品とは明確に区別される

Q003

医薬品の本質 | ○×

問題：一般用医薬品は、医師の処方なしに購入できるため、使用方法を守らなくても安全である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：一般用医薬品であっても用法・用量を守らなければ健康被害を生じるおそれがあり、適切な使用が求められる。

要点：一般用医薬品は医療用医薬品と異なり、医師の処方なしに購入できるが、適切な使用が求められる

Q004

医薬品のリスク評価 | 2択

問題：LD50とは何か。

選択肢

ア. 動物実験において投与した動物の50%が死亡する用量

イ. 動物実験において投与した動物の50%に効果が現れる用量

答え・解説

正答：ア. 動物実験において投与した動物の50%が死亡する用量

超簡単な解説：LD50（半数致死量）は動物の50%が死亡する用量で、毒性の強さを比較する指標として使われる。

要点：LD50（半数致死量）とは、動物実験において投与した動物の50%が死亡する用量のことであり、薬物の毒性指標…

Q005

医薬品のリスク評価 | ○×

問題：医薬品の承認前に行われる臨床試験（治験）によって、すべての副作用が事前に判明している。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：臨床試験は限られた被験者数で行われるため、まれな副作用は承認後の市販後調査で初めて明らかになることがある。

要点：医薬品のリスク評価においてヒトを対象とした臨床試験の実施は必須であるが、最終的に安全性が確認されるのは承認…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q006

医薬品のリスク評価 | 4択

問題：医薬品の量－反応関係について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 用量を増やしても効果は変わらない
- イ. 毒性は用量に関係なく一定である
- ウ. 用量が増えると効果も毒性も強まる傾向がある
- エ. 少量でも大量でも副作用の種類は変わらない

答え・解説

正答：ウ. 用量が増えると効果も毒性も強まる傾向がある

超簡単な解説：医薬品は用量が増えるほど効果も毒性も強まる傾向があり（量－反応関係）、用量と効果の関係を理解することが重要である。

要点：医薬品の投与量と効果・毒性の関係を示す量－反応関係において、用量が増えるほど効果も毒性も強くなる

Q007

医薬品のリスク評価 | 2択

問題：GLPとはどのような基準か。

選択肢

- ア. 非臨床試験（動物実験など）における安全性試験の実施基準
- イ. 医薬品の製造工程における品質管理の実施基準

答え・解説

正答：ア. 非臨床試験（動物実験など）における安全性試験の実施基準

超簡単な解説：GLP（Good Laboratory Practice）は非臨床試験の実施基準。

要点：GLP（優良試験所規範）はノンクリニカルスタディ（非臨床試験）における安全性試験の実施に関する基準である

Q008

医薬品のリスク評価 | ○×

問題：GCPは医薬品の臨床試験の実施基準であり、被験者の人権保護に関する規定も含まれている。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：GCP（Good Clinical Practice）は臨床試験の実施基準で、科学的信頼性の確保に加え被験者の人権保護も規定している。

要点：GCP（医薬品の臨床試験の実施の基準）はヒトを対象とした臨床試験（治験）の実施基準であり、被験者の人権保護…

Q009

健康食品 | 4択

問題：健康食品について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 食品であるため、疾病の治療・予防を目的として使用してはならない
- イ. 医薬品と一緒に使用しても相互作用は生じない
- ウ. 疾病の予防目的に限り医薬品と同等の効果が期待できる
- エ. 健康食品であれば大量摂取しても安全である

答え・解説

正答：ア. 食品であるため、疾病の治療・予防を目的として使用してはならない

超簡単な解説：健康食品は食品の一種であり、疾病の治療・予防を目的とした使用は認められていない。

要点：健康食品は医薬品ではなく食品であるため、疾病の治療・予防を目的として使用してはならない

Q010

健康食品 | ○×

問題：特定保健用食品（トクホ）は、消費者庁長官の許可なしに特定の保健の用途に適する旨を表示できる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：特定保健用食品は消費者庁長官の許可を受けた場合に限り、特定の保健の用途に適する旨の表示が認められる。

要点：特定保健用食品（トクホ）は消費者庁長官の許可を受けて、特定の保健の用途に適する旨の表示ができる食品である

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q011

健康食品 | 2択

問題：機能性表示食品について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 事業者の責任で機能性を表示でき、消費者庁長官への届出が必要
イ. 消費者庁長官の許可を受けて機能性を表示できる

答え・解説

正答：ア. 事業者の責任で機能性を表示でき、消費者庁長官への届出が必要

超簡単な解説：機能性表示食品は消費者庁長官の許可は不要だが、販売前に届出が必要。

要点：機能性表示食品は事業者の責任において科学的根拠に基づく機能性を表示できるが、消費者庁長官への届出が必要である

Q012

健康食品 | 4択

問題：令和6年の食品表示法改正で機能性表示食品に追加された主な規定はどれか。

選択肢

- ア. 医薬品と同等の臨床試験の実施義務化
イ. 消費者庁長官の事前許可制への移行
ウ. 健康被害に関する情報提供の義務化および製造管理の義務化
エ. 特定保健用食品との統合

答え・解説

正答：ウ. 健康被害に関する情報提供の義務化および製造管理の義務化

超簡単な解説：紅麹関連製品の健康被害を受けた令和6年の食品表示法改正により、機能性表示食品に健康被害情報の提供義務化・製造管理の義務化が追加された。

要点：機能性表示食品は、令和6年の食品表示法改正により、健康被害に関する情報提供の義務化・製造管理の義務化が追加…

Q013

健康食品 | ○×

問題：栄養機能食品は、国が定めた規格基準を満たせば消費者庁長官への届出なしに栄養機能の表示ができる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：栄養機能食品は規格基準型の制度であり、基準を満たせば消費者庁長官への届出なしで表示可能。

要点：栄養機能食品は国が定めた規格基準を満たせば届出不要で栄養機能を表示できる食品であり、消費者庁長官の許可は不要

Q014

セルフメディケーション | 2択

問題：セルフメディケーションとはどのような概念か。

選択肢

- ア. 自分自身の健康管理や軽度の体調不良への対処を自ら行うこと
イ. 医師の指示のもとで患者が主体的に治療に参加すること

答え・解説

正答：ア. 自分自身の健康管理や軽度の体調不良への対処を自ら行うこと

超簡単な解説：セルフメディケーションは自分で自分の健康を管理・ケアすることであり、一般用医薬品の活用はその重要な手段の一つである。

要点：セルフメディケーションとは、自分自身の健康管理や軽度な体調不良への対処を自ら行うことであり、一般用医薬品は…

Q015

セルフメディケーション | ○×

問題：WHOはセルフメディケーションを「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義している。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：WHO（世界保健機関）によるセルフメディケーションの定義として、自分の健康への責任と軽度の不調への自己対処が含まれる。

要点：世界保健機関（WHO）はセルフメディケーションを「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q016

副作用 | 4択

問題：医薬品の副作用を大別すると、どのような2種類になるか。

選択肢

ア. 局所性副作用と全身性副作用

イ. 可逆的副作用と不可逆的副作用

ウ. 急性副作用と慢性副作用

エ. 薬理作用による副作用とアレルギー（過敏反応）

答え・解説

正答：エ. 薬理作用による副作用とアレルギー（過敏反応）

超簡単な解説：医薬品の副作用は大きく①薬理作用によるもの（用量依存的）と②アレルギー（免疫反応による過敏反応）の2つに分類される。

要点：医薬品の副作用は、薬理作用による副作用とアレルギー（過敏反応）の2つに大別される

Q017

副作用 | ○×

問題：アレルギーによる副作用は医薬品の用量に比例して重症度が増す。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：アレルギー反応は免疫機構が介在するため用量との比例関係はなく、微量の投与でも重篤なアナフィラキシーショックが生じることがある。

要点：アレルギー（過敏反応）は医薬品の薬理作用とは無関係に免疫機構が介在して生じ、微量でも重篤な反応が起こりうる

Q018

副作用 | 2択

問題：医薬品のアレルギーの原因として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 医薬品の有効成分だけでなく添加物も原因になりうる

イ. アレルギーは有効成分のみが原因であり添加物は関係ない

答え・解説

正答：ア. 医薬品の有効成分だけでなく添加物も原因になりうる

超簡単な解説：医薬品のアレルギーは有効成分のほかに、賦形剤・着色料・防腐剤などの添加物が抗原となって生じることがある。

要点：医薬品にはそれ自体が原因となるアレルギーのほか、添加物が原因となるアレルギーも起こりうる

Q019

副作用 | 4択

問題：皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）について正しいものはどれか。

選択肢

ア. 医薬品の用量を守れば発症しない

イ. 重篤な皮膚障害の副作用であり、発症機序の詳細は不明

ウ. 発症機序が完全に解明されているため予測が容易

エ. 軽度の皮膚症状であり自然治癒する

答え・解説

正答：イ. 重篤な皮膚障害の副作用であり、発症機序の詳細は不明

超簡単な解説：皮膚粘膜眼症候群（SJS）は重篤な皮膚・粘膜障害であり、致命的になることもある。

要点：皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）は重篤な皮膚障害の副作用であり、発症機序の詳細は不明で…

Q020

副作用 | ○×

問題：中毒性表皮壊死融解症（TEN）は皮膚粘膜眼症候群（SJS）の軽症型である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：TENはSJSの重症型であり（軽症型ではない）、全身の皮膚・粘膜が広範に壊死する致命的な副作用である。

要点：中毒性表皮壊死融解症（TEN）は皮膚粘膜眼症候群の重症型であり、全身の皮膚・粘膜に広範な壊死を生じる致命的…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q021

相互作用 | 2択

問題：複数の医薬品を同時に使用した場合、相互作用によってどのような変化が起こりうるか。

選択肢

- ア. 作用が増強または減弱することがある
イ. 相互作用は医薬品同士では生じない

答え・解説

正答：ア. 作用が増強または減弱することがある

超簡単な解説：医薬品の相互作用には作用が強まる（増強）場合と弱まる（減弱）場合があり、いずれも適切な管理が必要である。

要点：複数の医薬品を同時に使用すると医薬品同士の相互作用によって作用が増強または減弱することがある

Q022

相互作用 | 4択

問題：医薬品の相互作用の種類として正しい組み合わせはどれか。

選択肢

- ア. 急性相互作用と慢性相互作用
イ. 薬物動態学的相互作用と薬力学的相互作用
ウ. 物理的相互作用と化学的相互作用
エ. 局所相互作用と全身相互作用

答え・解説

正答：イ. 薬物動態学的相互作用と薬力学的相互作用

超簡単な解説：医薬品の相互作用は①吸収・代謝などに影響する薬物動態学的相互作用と②作用部位での競合などによる薬力学的相互作用に分類される。

要点：医薬品の相互作用には、薬物動態学的相互作用（吸収・分布・代謝・排泄に影響）と薬力学的相互作用（作用部位での…

Q023

相互作用 | ○×

問題：グレープフルーツジュースは薬物代謝酵素を阻害し、一部の医薬品の血中濃度を上昇させることがある。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：グレープフルーツに含まれるフラノクマリン類がCYP3A4を阻害し、医薬品の代謝が抑制されて血中濃度が上昇することがある。

要点：グレープフルーツジュースは小腸にある薬物代謝酵素CYP3A4を阻害し、一部の医薬品の血中濃度を上昇させる

Q024

相互作用 | 2択

問題：医薬品と食品・飲料の相互作用について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 食品・飲料との相互作用で医薬品の効果が変化したり副作用が生じやすくな…
イ. 食品・飲料は医薬品の作用に影響しない

答え・解説

正答：ア. 食品・飲料との相互作用で医薬品の効果が変化したり副作用が生じやすくなる

超簡単な解説：食品（グレープフルーツ、牛乳など）や飲料（アルコール、緑茶など）は医薬品と相互作用を起こし、効果・副作用に影響することがある。

要点：医薬品と食品・飲料との相互作用により、効果が増強・減弱したり副作用が生じやすくなる

Q025

不適正な使用 | 4択

問題：医薬品の不適正な使用の例として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 添付文書をよく読んで正しく使用する
イ. 症状に合った適切な医薬品を選択する
ウ. 用量より多く使用して早く治そうとする
エ. 処方された用量を守り医師の指示どおりに使用する

答え・解説

正答：ウ. 用量より多く使用して早く治そうとする

超簡単な解説：用量より多く使用する行為は不適正な使用の典型例である。

要点：医薬品の不適正な使用には①使用する人が誤った使い方をする場合と②医薬品が本来の目的以外に使用される場合がある

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q026

不適正な使用 | ○×

問題：一般用医薬品に含まれる成分では、習慣性や依存性が生じることはない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：一般用医薬品であっても、コデインや一部の抗ヒスタミン薬など習慣性・依存性を生じうる成分が含まれる場合がある。

要点：習慣性・依存性のある成分を含む医薬品の不適正使用により、薬物乱用・依存が生じることがある

Q027

不適正な使用 | 2択

問題：医薬品の不適正使用に含まれるものはどれか。

選択肢

ア. 興奮・幻覚を目的として医薬品を服用する

イ. 添付文書の用法・用量を守って服用する

答え・解説

正答：ア. 興奮・幻覚を目的として医薬品を服用する

超簡単な解説：本来の治療目的以外（乱用・興奮・幻覚目的など）での医薬品使用は不適正使用であり、健康被害や依存を招くおそれがある。

要点：医薬品を本来の目的以外（乱用・興奮・幻覚目的など）に使用することも不適正使用に含まれる

Q028

小児・高齢者への配慮 | 4択

問題：小児に対する医薬品使用の注意点として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 体重あたりの体表面積が成人より小さいため影響を受けにくい

イ. 身体機能が未発達なため成人と同じ用量では過量になりやすい

ウ. 小児でも成人と同量で使用しても安全である

エ. 腸内細菌叢は成人とほぼ同じであり問題ない

答え・解説

正答：イ. 身体機能が未発達なため成人と同じ用量では過量になりやすい

超簡単な解説：小児は体重あたりの体表面積が大きく、身体機能が未発達のため成人と同量投与は過量になりやすく、医薬品の影響を受けやすい。

要点：小児は体重に比べて体表面積が大きく、腸内細菌叢が成人と異なるなど身体機能が未発達であり、医薬品の影響を受け…

Q029

小児・高齢者への配慮 | ○×

問題：医薬品の年齢区分において、乳児は1歳未満を指す。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：医薬品の年齢区分は、新生児（生後4週未満）・乳児（1歳未満）・幼児（7歳未満）・小児（15歳未満）と定められている。

要点：医薬品の年齢区分において、新生児は生後4週未満、乳児は1歳未満、幼児は7歳未満、小児は15歳未満とされる

Q030

小児・高齢者への配慮 | 2択

問題：高齢者で医薬品の副作用が生じやすい主な理由はどれか。

選択肢

ア. 生理機能低下により代謝・排泄が遅れ血中濃度が高まりやすいため

イ. 高齢者は免疫力が高いため副作用が強く現れるため

答え・解説

正答：ア. 生理機能低下により代謝・排泄が遅れ血中濃度が高まりやすいため

超簡単な解説：高齢者は肝機能・腎機能の低下により医薬品の代謝・排泄が遅延し、血中濃度が高まって副作用が生じやすくなる。

要点：高齢者は生理機能の低下により医薬品の代謝・排泄が遅れ、血中濃度が高まって副作用が生じやすい

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q031

小児・高齢者への配慮 | ○×

問題：高齢者は複数の疾患を持つ場合が多く、多剤併用による相互作用に注意が必要である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：高齢者は多疾患を抱えるため複数の薬を同時に服用することが多く（ポリファーマシー）、相互作用のリスクが高い。

要点：高齢者は複数の疾患を抱えていることが多く、多剤併用による相互作用にも注意が必要

Q032

妊婦・授乳婦への配慮 | 4択

問題：妊婦が医薬品を使用した場合の注意点として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 妊婦への医薬品使用は一般用医薬品であれば問題ない

イ. 妊娠初期は胎児への影響が最も小さい

ウ. 医薬品が胎盤を通じて胎児に移行することがある

エ. 胎盤はすべての医薬品成分を遮断するため胎児への影響はない

答え・解説

正答：ウ. 医薬品が胎盤を通じて胎児に移行することがある

超簡単な解説：医薬品は胎盤を通じて胎児に移行することがあり、特に器官形成期（妊娠初期）の使用は胎児への影響が大きい。

要点：妊婦が使用した医薬品は胎盤を通じて胎児に移行することがあり、胎児への影響に注意が必要

Q033

妊婦・授乳婦への配慮 | ○×

問題：授乳婦が使用した医薬品の成分は母乳には移行しないため、乳児への影響はない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：医薬品の成分は母乳中に移行することがあり、授乳中の薬の服用は乳児に影響を与えるおそれがある。

要点：授乳婦が使用した医薬品の成分が母乳中に移行し、乳児に影響を与えることがある

Q034

プラセボ効果 | 2択

問題：プラセボ効果とはどのような現象か。

選択肢

ア. 有効成分がなくても暗示・期待感などにより症状が改善する現象

イ. 有効成分の薬理作用によって症状が改善する現象

答え・解説

正答：ア. 有効成分がなくても暗示・期待感などにより症状が改善する現象

超簡単な解説：プラセボ効果は有効成分による薬理作用ではなく、心理的要因（暗示・期待感など）によって症状改善が起こる現象。

要点：プラセボ効果とは、有効成分を含まない偽薬（プラセボ）の投与でも症状の改善がみられる現象であり、暗示や期待感…

Q035

プラセボ効果 | ○×

問題：プラセボ効果は医療用医薬品にのみ生じ、一般用医薬品では生じない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：プラセボ効果は心理的要因によるものであり、医療用・一般用を問わず生じることがある。

要点：プラセボ効果は医薬品の使用に限らず、一般用医薬品でも生じることがある

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q036

薬害の歴史 | 4択

問題：サリドマイド薬害について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. サリドマイドは解熱鎮痛薬として使用されていた
イ. サリドマイドのR体に催奇形性があり、S体への変換は起こらない
ウ. サリドマイドのS体に催奇形性があり、体内でR体とS体は相互変換される
エ. 催奇形性はサリドマイドの全成分によるものであり光学異性体は無関係

答え・解説

正答：ウ. サリドマイドのS体に催奇形性があり、体内でR体とS体は相互変換される

超簡単な解説：サリドマイドはS体が催奇形性を持ち、R体を除いても体内でS体に変換されるため効果がない。

要点：サリドマイド薬害はサリドマイドを睡眠薬・つわり止めとして服用した妊婦から催奇形性のある児が生まれた事件で、…

Q037

薬害の歴史 | ○×

問題：スモン（亜急性脊髄視神経症）の原因薬物はサリドマイドである。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：スモンの原因はキノホルム（整腸剤）であり、サリドマイドは催奇形性による薬害の原因薬物である。

要点：スモン（亜急性脊髄視神経症）の原因は整腸剤として使用されたキノホルムであり、日本で多数の被害者が生じた

Q038

薬害の歴史 | 2択

問題：薬害エイズ事件の原因となった製品と主な被害者はどれか。

選択肢

- ア. HIV汚染の非加熱血液製剤・血友病患者
イ. プリオン汚染のヒト乾燥硬膜・脳外科手術患者

答え・解説

正答：ア. HIV汚染の非加熱血液製剤・血友病患者

超簡単な解説：薬害エイズはHIV汚染の非加熱血液製剤が原因で血友病患者が主な被害者。

要点：薬害エイズ事件はHIVに汚染された非加熱血液製剤を血友病患者に投与したことにより多数のHIV感染者を生じた…

Q039

薬害の歴史 | 4択

問題：CJD（クロイツフェルト・ヤコブ病）薬害の原因はどれか。

選択肢

- ア. プリオンに汚染されたヒト乾燥硬膜の移植
イ. HIVに汚染された血液製剤の投与
ウ. キノホルムの長期服用
エ. サリドマイドの妊娠中服用

答え・解説

正答：ア. プリオンに汚染されたヒト乾燥硬膜の移植

超簡単な解説：CJD薬害はプリオンに汚染されたヒト乾燥硬膜（脳外科手術用の移植材料）が原因。

要点：クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）薬害は、プリオンに汚染されたヒト乾燥硬膜をドナーから移植されたことによ…

Q040

薬害の歴史 | ○×

問題：薬害の教訓として、医薬品の安全対策は一度確立すれば継続的な見直しは不要である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：薬害の教訓から、医薬品の副作用情報収集・安全対策は継続的に改善・強化し続けることが求められる。

要点：薬害の歴史から学び、医薬品の副作用情報の収集・評価・提供体制や安全対策の継続的な改善が求められる

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q041

登録販売者の役割 | 4択

問題：登録販売者の主な役割として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 医薬品の研究開発に関する業務を担う
イ. 要指導医薬品および第1類医薬品を単独で販売できる
ウ. 医師の処方箋に基づき調剤を行う
エ. 購入者が適切な医薬品を選択し正しく使用できるよう情報提供・相談対応を…

答え・解説

正答：エ. 購入者が適切な医薬品を選択し正しく使用できるよう情報提供・相談対応を行う

超簡単な解説：登録販売者は第2類・第3類医薬品の販売ができ、購入者への情報提供・相談対応が主な役割。

要点：登録販売者は一般用医薬品の販売に従事する専門家として、購入者が適切な医薬品を選択し正しく使用できるよう情報…

Q042

登録販売者の役割 | ○×

問題：登録販売者は販売業務に特化しており、購入者に医療機関の受診を勧めることは業務範囲外である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：登録販売者は症状が重い・長引くなど市販薬での対処が適切でない場合、医療機関への受診を促す（受診勧奨）ことも重要な役割である。

要点：登録販売者は購入者の状況（症状・既往歴・他の薬の使用状況など）を確認し、必要に応じて受診勧奨を行うことも重…

Q043

登録販売者の役割 | 2択

問題：登録販売者に求められる資質として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 最新知識の継続的な習得と法令・制度の遵守
イ. 資格取得後は知識の更新は不要

答え・解説

正答：ア. 最新知識の継続的な習得と法令・制度の遵守

超簡単な解説：登録販売者は医薬品に関する法令改正や新たな情報に対応するため、常に最新知識の習得が求められる。

要点：登録販売者は常に最新の知識を習得し、医薬品に係る法令・制度の遵守とコンプライアンスの確保が求められる

Q044

医薬品の品質 | 4択

問題：医薬品の品質管理について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 使用期限を過ぎても外観が変化なければ使用できる
イ. 外観の変色・異臭などは品質劣化のサインであり使用を避けるべき
ウ. 開封前であれば直射日光下でも保管できる
エ. 医薬品は常温保存すれば品質は変化しない

答え・解説

正答：イ. 外観の変色・異臭などは品質劣化のサインであり使用を避けるべき

超簡単な解説：医薬品は不適切な保管（高温・多湿・直射日光など）により品質が劣化することがあり、変色・異臭などの外観変化は使用を控えるサイン。

要点：医薬品は適切な保管・管理がされないと品質が劣化し、外観上の変化（変色・異臭など）は品質劣化のサインとなる

Q045

医薬品の品質 | ○×

問題：医薬品は使用期限内であれば、開封後の保管状態に関わらず品質は保証されている。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：使用期限は未開封・適切な保管条件下での品質保証期限であり、開封後は品質変化が早まる場合がある。

要点：医薬品は使用期限内であっても、開封後は品質保証の対象外となる場合があり保管条件に注意が必要

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q046

医薬品の体内動態 | 2択

問題：経口投与された医薬品の主な吸収部位はどこか。

選択肢

- ア. 胃（胃粘膜が主な吸収部位）
イ. 小腸（主として小腸粘膜）

答え・解説

正答：イ. 小腸（主として小腸粘膜）

超簡単な解説：経口投与された医薬品は主に小腸で吸収される。

要点：経口投与された医薬品は消化管（主に小腸）から吸収されて血中に移行し、標的臓器に作用した後に肝臓で代謝・腎臓…

Q047

医薬品の体内動態 | ○×

問題：初回通過効果とは、経口投与された医薬品が全身循環に入る前に肝臓で代謝されて濃度が低下する現象である。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：初回通過効果（First Pass Effect）：経口投与→消化管吸収→門脈→肝臓で代謝→全身循環、の過程で薬物濃度が低下する現象。

要点：初回通過効果とは経口投与後に消化管から吸収された医薬品が門脈を通じて肝臓に達し、全身循環に至る前に代謝され…

Q048

医薬品の体内動態 | 4択

問題：坐剤（坐薬）の特徴として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 経口投与と吸収経路が同じであるため違いはない
イ. 小腸から吸収されるため初回通過効果を強く受ける
ウ. 肝臓を通過した後に直腸で吸収される
エ. 直腸から吸収されるため初回通過効果を受けにくい

答え・解説

正答：エ. 直腸から吸収されるため初回通過効果を受けにくい

超簡単な解説：坐剤は直腸粘膜から直接体循環に入るため肝臓での初回通過効果を受けにくく、効率的な吸収が期待できる。

要点：坐剤（坐薬）は直腸粘膜から吸収されるため初回通過効果を受けにくく、経口投与より高い血中濃度を得やすい場合が…

Q049

医薬品の体内動態 | 2択

問題：医薬品が体外に排泄される主な経路はどれか。

選択肢

- ア. 肺（呼気）からの排泄が主な経路
イ. 腎臓（尿）からの排泄が主な経路

答え・解説

正答：イ. 腎臓（尿）からの排泄が主な経路

超簡単な解説：医薬品の代謝物は主に腎臓から尿として排泄される。

要点：医薬品の多くは肝臓の薬物代謝酵素（主にCYP系）によって代謝され、水溶性の代謝物となって主に腎臓（尿）から…

Q050

医薬品の体内動態 | 4択

問題：腎機能低下患者への医薬品使用について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 腎機能に関わらず用量の調整は不要である
イ. 排泄が遅延して血中濃度が上昇し副作用が生じやすくなる
ウ. 腎機能低下では肝臓での代謝が促進されるため問題ない
エ. 腎機能低下では医薬品の吸収が遅れるため効果が弱くなる

答え・解説

正答：イ. 排泄が遅延して血中濃度が上昇し副作用が生じやすくなる

超簡単な解説：腎機能低下患者は医薬品の排泄が遅延するため血中濃度が上昇し、副作用リスクが高まる。

要点：腎機能が低下している患者では医薬品の排泄が遅延して血中濃度が上昇し、副作用が生じやすくなるため用量の調整が…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q051

剤形と特性 | ○×

問題：腸溶錠は胃酸に溶けないよう設計されており、主に腸で有効成分を放出する。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：腸溶錠は胃酸に耐性のある特殊コーティングを施した錠剤で、腸で溶けて有効成分を放出する。

要点：錠剤（内服）は口から服用して消化管で溶解・吸収される剤形であり、コーティング錠は胃で溶けず腸で溶けるよう設…

Q052

剤形と特性 | 2択

問題：チュアブル錠の服用方法として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 嚥まずに水で飲み込む

イ. 口の中で噛み砕いて服用する

答え・解説

正答：イ. 口の中で噛み砕いて服用する

超簡単な解説：チュアブル錠は噛み砕いて服用する錠剤。

要点：チュアブル錠は口の中で噛み砕いて服用する錠剤であり、水なしでも服用できる

Q053

剤形と特性 | 4択

問題：口腔内崩壊錠（OD錠）の特徴として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 胃の中でのみ溶けるよう特殊コーティングされている

イ. 嚥み砕いて服用する必要がある

ウ. 唾液で速やかに溶けるため水なしでも服用できる

エ. 皮膚に貼付して使用する剤形である

答え・解説

正答：ウ. 唾液で速やかに溶けるため水なしでも服用できる

超簡単な解説：OD錠（口腔内崩壊錠）は唾液で崩壊するため水なしでも服用可能。

要点：口腔内崩壊錠（OD錠）は唾液で速やかに溶け、水なしでも服用できるため嚥下困難な高齢者などに適している

Q054

剤形と特性 | ○×

問題：カプセル剤はカプセルを外して中身だけを服用すれば、効果・安全性ともに問題ない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：カプセルを外すと内容物が口腔・食道に付着して刺激を与えたり、薬物の放出制御が崩れて副作用が増すおそれがある。

要点：カプセル剤はゼラチンなどで作られたカプセルに有効成分を充填した剤形であり、苦味・臭いのある薬物を服用しやす…

Q055

剤形と特性 | 2択

問題：液剤（内服液）と錠剤を比較した場合の特徴として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 液剤は錠剤より吸収が遅く効果が穏やかである

イ. 液剤は錠剤より消化管からの吸収が速い傾向がある

答え・解説

正答：イ. 液剤は錠剤より消化管からの吸収が速い傾向がある

超簡単な解説：液剤はすでに溶解しているため固形製剤より吸収が速い傾向がある。

要点：液剤（内服液）は固形製剤より消化管からの吸収が速い傾向があるが、開封後の品質劣化に注意が必要

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q056

剤形と特性 | 4択

問題：貼付剤（経皮吸収型製剤）の特徴として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 局所にのみ作用し全身への移行はない
イ. 消化管で吸収されるため経口投与と同様の初回通過効果を受ける
ウ. 皮膚から吸収され初回通過効果を受けずに全身へ作用できる
エ. 貼付後すぐに効果が現れ作用時間が短い

答え・解説

正答：ウ. 皮膚から吸収され初回通過効果を受けずに全身へ作用できる

超簡単な解説：貼付剤は皮膚→体循環と移行するため肝臓での初回通過効果を受けない。

要点：経皮吸収型製剤（貼付剤）は皮膚から有効成分を吸収させる剤形であり、初回通過効果を受けずに全身に作用させるこ…

Q057

剤形と特性 | ○×

問題：点眼剤は多く点眼するほど薬液が目には吸収されやすく、治療効果が高まる。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：結膜嚢の容量には限界があるため、1回の点眼は1～2滴が適切。

要点：点眼剤は結膜嚢に滴下する剤形であり、1回の点眼量は1～2滴が適切で、多く点眼しても効果は増さず涙道から鼻腔…

Q058

剤形と特性 | 2択

問題：吸入剤の主な特徴として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 気道・肺に直接薬物を届けられ局所での効果発現が速い
イ. 消化管から吸収されるため効果発現に時間がかかる

答え・解説

正答：ア. 気道・肺に直接薬物を届けられ局所での効果発現が速い

超簡単な解説：吸入剤は気道・肺に直接薬物を送達するため、局所での効果発現が速く全身への影響も比較的少ない。

要点：吸入剤は気道や肺に直接薬物を届けられる剤形であり、全身への影響が少なく局所で速やかに効果を発揮できる

Q059

剤形と特性 | 4択

問題：投与経路の中で最も吸収が速く効果発現が速いものはどれか。

選択肢

- ア. 筋肉内注射
イ. 経口投与
ウ. 皮下注射
エ. 静脈内注射

答え・解説

正答：エ. 静脈内注射

超簡単な解説：静脈内注射は吸収過程なく直接血中に入るため最も速く効果が現れる。

要点：注射剤は最も吸収が速い投与経路であり、静脈内投与では吸収過程なく直接体循環に入るため効果発現が最も速い

Q060

血液脳関門・各種バリア | ○×

問題：血液脳関門（BBB）はすべての薬物が脳へ移行するのを完全に防ぐ。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：血液脳関門は多くの物質の脳移行を防ぐが、脂溶性の高い薬物・分子量の小さい薬物・アルコールなどは通過できる。

要点：血液脳関門（BBB）は脳の毛細血管に存在する構造で、多くの物質が脳組織に移行するのを防ぐが、脂溶性の高い薬…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q061

血液脳関門・各種バリア | 2択

問題：胎盤関門について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 完全なバリアではなく脂溶性薬物などは胎児へ移行しうる
イ. すべての薬物成分を遮断し胎児への移行を完全に防ぐ

答え・解説

正答：ア. 完全なバリアではなく脂溶性薬物などは胎児へ移行しうる

超簡単な解説：胎盤関門は胎児を保護する構造だが完全ではなく、脂溶性薬物やアルコールなどは通過できる。

要点：胎盤関門は血液脳関門と同様の仕組みで胎児を守るが、完全なバリアではなく脂溶性の薬物などは胎児へ移行すること…

Q062

血液脳関門・各種バリア | 4択

問題：乳児の血液脳関門について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 成人に比べて未発達であり薬物が脳へ移行しやすい
イ. 乳児では血液脳関門は存在しない
ウ. 成人より発達しているため薬物の脳移行が少ない
エ. 成人と同程度に発達しており薬物の脳移行を防ぐ

答え・解説

正答：ア. 成人に比べて未発達であり薬物が脳へ移行しやすい

超簡単な解説：乳児の血液脳関門は成人に比べて未発達のため薬物が脳へ移行しやすく、中枢神経への影響を受けやすい。

要点：乳児の血液脳関門は成人に比べて未発達であり、医薬品が脳へ移行しやすく影響を受けやすい

Q063

医薬品のリスク区分 | ○×

問題：一般用医薬品の中でリスクが最も高いのは第3類医薬品である。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：一般用医薬品のリスク区分は第1類（最高）、第2類、第3類（最低）の順。

要点：一般用医薬品はリスクに応じて第1類・第2類・第3類の3種類に分類され、第1類が最もリスクが高い

Q064

医薬品のリスク区分 | 2択

問題：第1類医薬品を販売できる者はだれか。

選択肢

- ア. 薬剤師または登録販売者
イ. 薬剤師のみ

答え・解説

正答：イ. 薬剤師のみ

超簡単な解説：第1類医薬品は薬剤師のみ販売可能で、書面による情報提供が義務。

要点：第1類医薬品は薬剤師のみが販売でき、書面による情報提供が義務付けられている

Q065

医薬品のリスク区分 | 4択

問題：登録販売者が単独で販売できる医薬品の区分はどれか。

選択肢

- ア. 第2類医薬品および第3類医薬品
イ. 第1類医薬品・第2類医薬品・第3類医薬品すべて
ウ. 第3類医薬品のみ
エ. 要指導医薬品および第1類医薬品

答え・解説

正答：ア. 第2類医薬品および第3類医薬品

超簡単な解説：登録販売者が単独で販売できるのは第2類・第3類医薬品。

要点：登録販売者は第2類・第3類医薬品を販売できるが、第1類医薬品および要指導医薬品は薬剤師のみが販売できる

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q066

医薬品のリスク区分 | ○×

問題：指定第2類医薬品は第2類医薬品の中でも特に注意を要するものとして区別されている。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：指定第2類医薬品（②）は第2類の中でも特に慎重な使用が求められるもので、禁忌事項の確認や情報提供が特に重要。

要点：指定第2類医薬品は第2類医薬品の中でも特に注意を要するものとして指定された区分で、情報提供が特に求められる

Q067

医薬品のリスク区分 | 2択

問題：要指導医薬品のインターネット販売について正しいものはどれか。

選択肢

ア. 薬剤師が確認すればインターネット販売も認められる
イ. インターネット販売は認められていない

答え・解説

正答：イ. インターネット販売は認められていない

超簡単な解説：要指導医薬品は薬剤師による対面での情報提供・販売が必須であり、インターネット販売は禁止されている。

要点：要指導医薬品はリスクが高く薬剤師が対面で情報提供・販売する必要がある、インターネット販売は認められていない

Q068

医薬品のリスク区分 | 4択

問題：スイッチOTC医薬品とはどのような医薬品か。

選択肢

ア. 医療用医薬品から一般用医薬品に転用された医薬品
イ. 医師の処方なしに販売できるよう新たに開発された医薬品
ウ. 一般用医薬品から医療用医薬品に変更された医薬品
エ. 第3類医薬品から第1類医薬品に区分変更された医薬品

答え・解説

正答：ア. 医療用医薬品から一般用医薬品に転用された医薬品

超簡単な解説：スイッチOTCは医療用医薬品（処方箋医薬品）の有効成分をOTC（一般用）に転用したもの。

要点：スイッチOTC医薬品とは医療用医薬品から一般用医薬品（OTC）に転用された医薬品であり、要指導医薬品を経て…

Q069

医薬品の販売制度 | ○×

問題：薬局は医薬品の調剤のみを行う施設であり、一般用医薬品の販売は認められていない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：薬局は処方箋に基づく調剤のほか、要指導医薬品および一般用医薬品の販売も行うことができる。

要点：薬局は医薬品の調剤と販売が行える施設であり、薬局開設の許可は都道府県知事（または市長・区長）が行う

Q070

医薬品の販売制度 | 2択

問題：店舗販売業について正しいものはどれか。

選択肢

ア. 一般用医薬品と要指導医薬品を販売できるが調剤はできない
イ. 調剤と一般用医薬品の販売の両方ができる

答え・解説

正答：ア. 一般用医薬品と要指導医薬品を販売できるが調剤はできない

超簡単な解説：店舗販売業（ドラッグストアなど）は要指導・一般用医薬品の販売が可能だが調剤はできない。

要点：店舗販売業は一般用医薬品と要指導医薬品を販売できる施設であるが、調剤は行えない

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q071

医薬品の販売制度 | 4択

問題：配置販売業の説明として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 薬局のカウンターで対面販売を行う形態

イ. インターネットを通じて医薬品を販売する形態

ウ. 家庭等に医薬品を置き使用後に代金を収受する販売形態

エ. 医師の処方箋に基づいて調剤する業態

答え・解説

正答：ウ. 家庭等に医薬品を置き使用後に代金を収受する販売形態

超簡単な解説：配置販売業は「先置き後払い」の販売形態。

要点：配置販売業は購入者の家庭等に医薬品を置いて使用後に代金を収受する販売形態であり、第1類医薬品の配置販売は薬…

Q072

医薬品の販売制度 | ○×

問題：要指導医薬品は特定販売（インターネット等）での販売が認められている。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：要指導医薬品は対面販売が義務付けられておりインターネット販売（特定販売）は認められない。

要点：一般用医薬品のネット販売（特定販売）は第1類～第3類すべてで認められており、薬剤師または登録販売者が情報提…

Q073

添付文書 | 2択

問題：一般用医薬品の添付文書について正しいものはどれか。

選択肢

ア. 添付文書は薬剤師向けの専門情報であり購入者は読む必要がない

イ. 用法・用量・使用上の注意が記載され使用前に読むことが重要

答え・解説

正答：イ. 用法・用量・使用上の注意が記載され使用前に読むことが重要

超簡単な解説：添付文書は購入者が安全に医薬品を使用するための重要な情報源。

要点：医薬品の添付文書には用法・用量・使用上の注意などが記載されており、一般用医薬品の購入者は使用前に必ず読むこ…

Q074

添付文書 | 4択

問題：添付文書の「してはいけないこと」欄に記載される内容として最も適切なものはどれか。

選択肢

ア. 医薬品の薬理作用の詳細な説明

イ. 医薬品の製造方法と品質基準

ウ. 副作用が起きた場合の医療機関のリスト

エ. 守らないと重篤な副作用や症状悪化が生じるおそれのある禁忌事項

答え・解説

正答：エ. 守らないと重篤な副作用や症状悪化が生じるおそれのある禁忌事項

超簡単な解説：「してはいけないこと」欄は禁忌・禁止事項を記載した最重要項目。

要点：添付文書の「してはいけないこと」欄には、守らないと症状が悪化した重篤な副作用が生じるおそれのある禁忌事項…

Q075

添付文書 | ○×

問題：添付文書の「相談すること」欄には、使用前に医師や薬剤師に相談すべき症状・状態が記載されている。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：「相談すること」欄には「次の人は使用前に相談」として基礎疾患・年齢・併用薬などの条件が記載されており、情報収集の重要な根拠となる。

要点：「相談すること」欄には、医師や薬剤師に相談してから使用すべき症状・状態が記載されており、受診勧奨の基準となる

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q076

副作用報告 | 2択

問題：副作用報告制度について、登録販売者の報告義務はどのようなものか。

選択肢

- ア. 副作用報告は薬剤師のみに義務があり登録販売者には課されない
イ. 登録販売者も副作用等を発見した場合に報告する義務がある

答え・解説

正答：イ. 登録販売者も副作用等を発見した場合に報告する義務がある

超簡単な解説：薬機法に基づく副作用等報告制度は、薬剤師のほか登録販売者にも義務が課されている。

要点：医薬品・医療機器等安全性情報報告制度（旧：副作用報告制度）に基づき、登録販売者も副作用等の報告義務を負う

Q077

副作用報告 | 4択

問題：副作用情報の収集・評価を担う機関として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 日本薬剤師会
イ. PMDA（医薬品医療機器総合機構）
ウ. 都道府県業務課
エ. 厚生労働省医薬局

答え・解説

正答：イ. PMDA（医薬品医療機器総合機構）

超簡単な解説：PMDA（Pharmaceuticals and Medical Devices Agency）は副作用情報の収集・評価・安全性情報の提供を担…

要点：副作用等報告はPMDA（医薬品医療機器総合機構）が収集・評価し、安全対策に活用される

Q078

副作用報告 | ○×

問題：医薬品製造販売業者は副作用情報を一定期間ごとに厚生労働大臣へ報告する義務がある。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：製造販売業者は副作用情報を定期的に収集・評価し、定期安全性最新報告（PSUR）として厚生労働大臣へ提出することが義務付けられている。

要点：企業は医薬品の副作用情報を収集し、一定期間ごとに厚生労働大臣に定期安全性最新報告（PSUR）を提出する義務…

Q079

受診勧奨 | 2択

問題：登録販売者が受診勧奨を行うべき状況として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 症状が重い・長引く・繰り返すなど市販薬での対処が適切でない場合
イ. 購入者が医師の診察を嫌がっている場合はどんな症状でも市販薬で対応する

答え・解説

正答：ア. 症状が重い・長引く・繰り返すなど市販薬での対処が適切でない場合

超簡単な解説：症状が重い・改善しない・繰り返す場合は市販薬での対処より医療機関受診が優先される。

要点：登録販売者は購入者の症状が重い・長引く・繰り返すなどの場合は一般用医薬品での対処より医療機関への受診を勧め…

Q080

受診勧奨 | 4択

問題：次のうち医療機関への受診勧奨が最も適切な状況はどれか。

選択肢

- ア. 高熱が3日以上続いており市販の解熱鎮痛薬で改善しない
イ. 軽い鼻水が2日前から続いている
ウ. 花粉症の症状が毎年同じ時期に出ている
エ. 過去に経験したことのある軽度の頭痛がある

答え・解説

正答：ア. 高熱が3日以上続いており市販の解熱鎮痛薬で改善しない

超簡単な解説：3日以上続く高熱で市販薬が無効な場合は重篤な疾患の可能性があり、速やかな受診勧奨が必要。

要点：一般用医薬品で対処できる範囲は限られており、急性・重症・診断が必要な症状は医療機関を受診することが適切

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q081

医薬品情報の収集 | ○×

問題：登録販売者が医薬品情報を収集する際、製品情報概要や医薬品安全性情報なども活用できる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：登録販売者は添付文書のほか、製品情報概要、医薬品・医療機器等安全性情報、PMDAのデータベースなど多様な情報源を活用して最新情報を収集する。

要点：登録販売者は医薬品に関する最新情報を得るために、添付文書・製品情報概要・医薬品安全性情報などを活用する

Q082

医薬品情報の収集 | 2択

問題：PMDAのホームページで入手できる情報として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 医薬品の価格・在庫情報

イ. 添付文書情報や副作用・感染症報告情報などの医薬品安全性情報

答え・解説

正答：イ. 添付文書情報や副作用・感染症報告情報などの医薬品安全性情報

超簡単な解説：PMDAのサイトでは添付文書の最新版、副作用報告情報、医薬品安全性情報（PMDA医療安全情報）などが閲覧できる。

要点：独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページでは添付文書情報や副作用・感染症報告情報などを…

Q083

一般用医薬品の役割 | 4択

問題：一般用医薬品の社会的役割として誤っているものはどれか。

選択肢

ア. セルフメディケーションの支援

イ. 重篤な疾患の根本的な治療を担う

ウ. 軽度な疾病の症状緩和への対処

エ. 生活習慣病の予防への貢献

答え・解説

正答：イ. 重篤な疾患の根本的な治療を担う

超簡単な解説：一般用医薬品は軽度な不調の対処・セルフメディケーション支援を役割とする。

要点：一般用医薬品には①軽度な疾病への対処②生活習慣の改善③セルフメディケーションの支援という役割がある

Q084

一般用医薬品の役割 | ○×

問題：一般用医薬品は症状改善後も継続使用することで医療費の削減に貢献するため、改善後も使い続けることが推奨される。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：一般用医薬品は症状改善を目的として使用するものであり、改善後も漫然と継続使用することは適切ではない。

要点：一般用医薬品は医療機関での治療を補完するものであり、症状が改善しない場合には医療機関受診につなぐ橋渡しの役…

Q085

薬物動態 | 2択

問題：血中でタンパク質と結合した薬物について正しいものはどれか。

選択肢

ア. タンパク結合型の方が遊離型より薬理活性が強い

イ. タンパク結合型は薬理活性を持たず、遊離型のみが活性を示す

答え・解説

正答：イ. タンパク結合型は薬理活性を持たず、遊離型のみが活性を示す

超簡単な解説：血中薬物はアルブミン等と結合した「タンパク結合型」と結合していない「遊離型」に分かれ、組織に移行して作用するのは遊離型のみ。

要点：タンパク結合率が高い薬物は血中でアルブミンなどのタンパク質と結合した状態では薬理活性を発揮せず、遊離型のみ…

Q086

薬物動態 | 4択

問題：肝機能低下患者への医薬品使用で注意すべき点はどれか。

選択肢

ア. 肝機能は薬物動態に影響しない

イ. 薬物代謝が遅延し血中濃度が上昇して副作用が生じやすい

ウ. 薬物代謝が促進され効果が弱くなりやすい

エ. 消化管からの吸収が低下して効果が現れにくい

答え・解説

正答：イ. 薬物代謝が遅延し血中濃度が上昇して副作用が生じやすい

超簡単な解説：肝機能低下では薬物代謝が低下し血中濃度が高まるため副作用リスクが増大する。

要点：肝機能が低下している患者では薬物代謝が遅延し、血中薬物濃度が高まって副作用が生じやすくなる

Q087

薬物動態 | ○×

問題：薬物の半減期が長いほど、薬物は体内に長く留まり作用が持続しやすい。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：半減期は薬物濃度が半分になるまでの時間。

要点：薬物の半減期とは血中薬物濃度が最高値の半分になるまでの時間であり、半減期が長い薬物は体内に長く留まる

Q088

医薬品と他の薬の関係 | 2択

問題：漢方薬・生薬製剤の相互作用について正しいものはどれか。

選択肢

ア. 天然由来であっても西洋薬との相互作用が生じることがある

イ. 天然由来のため西洋薬との相互作用は生じない

答え・解説

正答：ア. 天然由来であっても西洋薬との相互作用が生じることがある

超簡単な解説：漢方薬・生薬は天然由来だが医薬品であり、西洋薬との相互作用が生じうる。

要点：漢方薬・生薬製剤も医薬品であるため、西洋薬との相互作用が生じる場合があり、安全性に注意が必要

Q089

医薬品と他の薬の関係 | 4択

問題：処方薬を服用中の人が一般用医薬品を使用する場合の注意点として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 処方薬より一般用医薬品の方が安全なので問題ない

イ. 処方薬との相互作用の可能性があるので医師・薬剤師への相談が望ましい

ウ. 処方薬と一般用医薬品を同時服用しても問題ない

エ. 一般用医薬品は処方薬と成分が異なるため相互作用は起きない

答え・解説

正答：イ. 処方薬との相互作用の可能性があるので医師・薬剤師への相談が望ましい

超簡単な解説：処方薬と一般用医薬品は同じ成分・類似成分を含む場合があり、重複や相互作用が生じうる。

要点：医療用医薬品を服用中の人が一般用医薬品を使用する場合、処方薬との相互作用に注意が必要であり医師・薬剤師への…

Q090

医薬品のリスク評価 | ○×

問題：GMPとは医薬品の臨床試験実施に関する基準のことである。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：GMPは製造管理・品質管理の基準（Good Manufacturing Practice）。

要点：GMP（Good Manufacturing Practice：医薬品の製造管理・品質管理の基準）は医薬品…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q091

医薬品のリスク評価 | 2択

問題：GVP（Good Vigilance Practice）とはどのような基準か。

選択肢

- ア. 製造販売後の安全管理（ファーマコビジランス）の基準
イ. 医薬品の非臨床安全性試験の実施基準

答え・解説

正答：ア. 製造販売後の安全管理（ファーマコビジランス）の基準

超簡単な解説：GVP（Good Vigilance Practice）は市販後の安全管理に関する省令（ファーマコビジランスの基準）。

要点：GPP（Good Post-marketing Surveillance Practice：製造販売後調査…

Q092

薬害の歴史 | 4択

問題：MMRワクチン薬害の主な健康被害はどれか。

選択肢

- ア. 無菌性髄膜炎
イ. HIV感染
ウ. スモン（亜急性脊髄視神経症）
エ. 催奇形性

答え・解説

正答：ア. 無菌性髄膜炎

超簡単な解説：MMRワクチン薬害では含有されたウルグアイ株（ジェリル・リン株ではなく）によって無菌性髄膜炎が多発し、ワクチンの使用中止につながった。

要点：MMR（麻疹・おたふく・風疹）ワクチン薬害では、ワクチンに含まれるウルグアイ株が無菌性髄膜炎を引き起こし問…

Q093

薬害の歴史 | ○×

問題：ソリブジン事件は抗ウイルス薬と抗がん剤の相互作用による死亡事例であり、相互作用の危険性を示した薬害である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：ソリブジン（抗ウイルス薬）と5-FU系抗がん剤の併用でソリブジンが5-FUの代謝を阻害し致命的な副作用が生じた。

要点：ソリブジン（抗ウイルス薬）と5-FU系抗がん剤の併用により死亡例が生じたソリブジン事件は、相互作用の危険性…

Q094

添付文書 | 2択

問題：添付文書の「使用上の注意」の区分として正しい組み合わせはどれか。

選択肢

- ア. 「してはいけないこと」「相談すること」「その他の注意」の3区分
イ. 「禁忌」「警告」「注意」の3区分

答え・解説

正答：ア. 「してはいけないこと」「相談すること」「その他の注意」の3区分

超簡単な解説：一般用医薬品の添付文書「使用上の注意」は①してはいけないこと②相談すること③その他の注意の3区分。

要点：添付文書には「使用上の注意」として「してはいけないこと」「相談すること」「その他の注意」の3区分が設けられ…

Q095

添付文書 | 4択

問題：一般用医薬品の添付文書における「効能・効果」の記載について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 医師向けに専門的な医学用語で記載される
イ. 効能・効果は添付文書には記載されない
ウ. 一般生活者が理解しやすい平易な表現で記載される
エ. 医療用医薬品と全く同じ表現で記載される

答え・解説

正答：ウ. 一般生活者が理解しやすい平易な表現で記載される

超簡単な解説：一般用医薬品の添付文書は購入者（一般生活者）向けのため、医療用に比べて平易でわかりやすい表現で効能・効果を記載することとされている。

要点：一般用医薬品の添付文書の「効能・効果」は医療用医薬品より平易な表現で記載されており、一般生活者が理解しやす…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q096

適正使用 | ○×

問題：風邪薬と解熱鎮痛薬のように複数の一般用医薬品を組み合わせ使用しても成分が重複することはない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：風邪薬と解熱鎮痛薬にはアセトアミノフェンなど共通成分が含まれることが多く、同時使用で過剰摂取になるおそれがある。
要点：同じ成分・類似成分を含む医薬品を複数同時に使用すること（重複服用）は、有効成分の過剰摂取につながり副作用リ…

Q097

適正使用 | 2択

問題：医薬品の服用間隔（投与間隔）を守ることが重要な理由はどれか。

選択肢

ア. 服用間隔は患者の生活リズムに合わせて変更してよいため
イ. 血中濃度を適切な範囲に維持するため

答え・解説

正答：イ. 血中濃度を適切な範囲に維持するため

超簡単な解説：投与間隔は薬物の半減期などに基づいて設定されており、血中濃度を有効域に保つために守ることが重要。

要点：医薬品の用法・用量に定められた投与間隔は薬物動態に基づき設定されており、血中濃度を適切な範囲に維持するため…

Q098

適正使用 | 4択

問題：一般用医薬品の長期連用について正しいものはどれか。

選択肢

ア. 一般用医薬品は医療用より安全なため長期連用しても問題ない
イ. 長期連用は予防効果があるため症状改善後も継続が推奨される
ウ. 依存性や副作用の蓄積など問題が生じるおそれがあり、症状改善後は中止が…
エ. 長期連用によって医薬品への耐性がつき副作用が出にくくなる

答え・解説

正答：ウ. 依存性や副作用の蓄積など問題が生じるおそれがあり、症状改善後は中止が原則

超簡単な解説：一般用医薬品の漫然とした長期連用は依存形成・副作用蓄積のリスクがある。

要点：一般用医薬品の長期連用（漫然とした使用）は依存性・副作用の蓄積など問題を生じることがあり、症状改善後は使用…

Q099

医薬品の本質 | ○×

問題：医薬品の効果や副作用の現れ方には個人差があり、体質や病態によって異なることがある。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：遺伝的背景・体質・年齢・基礎疾患・他の薬との相互作用など多くの要因により、同じ薬でも個人によって効果・副作用の程度が大きく異なる。

要点：医薬品は体質・病態・他の医薬品との組み合わせなど個人差があり、同じ薬でも人によって効果・副作用の現れ方が異…

Q100

医薬品の本質 | 4択

問題：医薬品の安全性について正しいものはどれか。

選択肢

ア. 一般用医薬品は医療用医薬品より厳しい試験を経ているため安全性が高い
イ. 添付文書に記載のない副作用は生じることがない
ウ. 承認された医薬品はすべての副作用が解明されており安全性は完全に保証さ…
エ. 承認された医薬品であっても100%の安全性は保証されておらず予測でき…

答え・解説

正答：エ. 承認された医薬品であっても100%の安全性は保証されておらず予測できない副作用が生じることがある

超簡単な解説：どんな医薬品も100%の安全性はなく、添付文書に記載のない副作用が生じることもある。

要点：医薬品は科学的根拠に基づいて製造・承認されるが、使用した際の副作用は予測できないこともあり100%の安全性…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q101

アナフィラキシー | 4択

問題：アナフィラキシーショックについて正しいものはどれか。

選択肢

ア. 軽度の皮膚症状のみを示し生命への危険はない

イ. 医薬品の用量依存的な副作用であり用量を減らせば防げる

ウ. 遅延型アレルギーの一種で数日かけてゆっくり症状が進行する

エ. 即時型アレルギーの最重症型で血圧低下・意識障害を生じる生命に関わる緊…

答え・解説

正答：エ. 即時型アレルギーの最重症型で血圧低下・意識障害を生じる生命に関わる緊急事態

超簡単な解説：アナフィラキシーショックは即時型（Ⅰ型）アレルギーの最重症型。

要点：アナフィラキシーショックは即時型アレルギー反応の最重症型で、血圧低下・意識障害などを生じる生命に関わる緊急…

Q102

アナフィラキシー | ○×

問題：アナフィラキシーは初めて医薬品を使用した場合には生じることなく、2回目以降の使用で生じる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：アナフィラキシーは基本的には感作（初回接触）後の再接触で生じるが、食品や環境抗原との交差反応などにより初めての使用でも生じる場合がある。

要点：アナフィラキシーは微量の抗原でも生じることがあり、過去にアレルギー歴がある人は特にリスクが高い

Q103

アナフィラキシー | 2択

問題：アナフィラキシーの前駆症状として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 皮膚のかゆみ・じんましん・口腔内の異常感・悪心など

イ. 高熱・関節痛・筋肉痛などのインフルエンザ様症状

答え・解説

正答：ア. 皮膚のかゆみ・じんましん・口腔内の異常感・悪心など

超簡単な解説：アナフィラキシーの前駆症状には皮膚症状（かゆみ・じんましん）、口腔・咽頭の異常感、消化器症状（悪心・腹痛）などがある。

要点：アナフィラキシーの前駆症状として皮膚のかゆみ・じんましん・口腔内の異常感・悪心などがあり、これらが現れたら…

Q104

重篤な副作用 | 4択

問題：間質性肺炎の主な症状はどれか。

選択肢

ア. 空咳・息切れ・発熱（37～38℃台）

イ. 黄疸・褐色尿・倦怠感

ウ. 腹痛・下痢・血便

エ. 頭痛・めまい・耳鳴り

答え・解説

正答：ア. 空咳・息切れ・発熱（37～38℃台）

超簡単な解説：間質性肺炎は肺の間質の炎症で空咳・息切れ・微熱が主症状。

要点：間質性肺炎は肺の間質（肺胞壁・肺泡隔壁など）に炎症が生じる副作用で、空咳・息切れ・発熱などの症状が現れる

Q105

重篤な副作用 | ○×

問題：偽アルドステロン症は低カリウム血症・血圧上昇・むくみ・脱力感などを生じる副作用で、グリチルリチン酸を含む医薬品で生じることがある。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：偽アルドステロン症はアルドステロン分泌増加なしにアルドステロン症と同様の症状を示す。

要点：偽アルドステロン症はグリチルリチン酸を含む医薬品などで生じることがある副作用で、低カリウム血症・血圧上昇・…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q106

重篤な副作用 | 2択

問題：医薬品による肝機能障害の主な症状はどれか。

選択肢

- ア. 黄疸・倦怠感・食欲不振・褐色尿など
イ. 空咳・息切れ・微熱など

答え・解説

正答：ア. 黄疸・倦怠感・食欲不振・褐色尿など

超簡単な解説：薬剤性肝障害の症状は黄疸（皮膚・眼球の黄染）・褐色尿・倦怠感・食欲不振など。

要点：肝機能障害は医薬品による副作用として生じることがあり、黄疸・倦怠感・食欲不振・褐色尿などが症状として現れる

Q107

重篤な副作用 | 4択

問題：医薬品による腎障害の主な症状として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 黄疸・褐色尿・食欲不振
イ. 空咳・息切れ・微熱
ウ. 尿量の減少・むくみ・倦怠感・頭痛
エ. 低カリウム血症・血圧上昇・脱力感

答え・解説

正答：ウ. 尿量の減少・むくみ・倦怠感・頭痛

超簡単な解説：薬剤性腎障害は尿量減少・むくみ・倦怠感・頭痛が主症状。

要点：腎障害は医薬品の副作用として生じることがあり、尿量の減少・むくみ・倦怠感・頭痛などが症状として現れる

Q108

重篤な副作用 | ○×

問題：消化性潰瘍はNSAIDs（解熱鎮痛薬など）の副作用として生じることがある。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：NSAIDsはプロスタグランジン合成阻害により胃粘膜保護機能を低下させ消化性潰瘍を引き起こすことがある。

要点：消化性潰瘍は胃や十二指腸の粘膜が損傷する副作用で、NSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）などで生じやすい

Q109

薬物依存 | 2択

問題：薬物依存の種類として正しい組み合わせはどれか。

選択肢

- ア. 精神的依存（心理的渴望）と身体的依存（離脱症状）
イ. 急性依存（短期使用後）と慢性依存（長期使用後）のみ

答え・解説

正答：ア. 精神的依存（心理的渴望）と身体的依存（離脱症状）

超簡単な解説：薬物依存は①精神的依存（薬物への強い渴望・心理的執着）と②身体的依存（使用中断時の離脱症状）に分類される。

要点：薬物依存には精神的依存（薬物摂取への強い欲求）と身体的依存（中断時の離脱症状）がある

Q110

薬物依存 | 4択

問題：一般用医薬品の成分のうち、習慣性・依存性を生じやすい成分はどれか。

選択肢

- ア. ビタミンC（アスコルビン酸）
イ. 炭酸水素ナトリウム（重曹）
ウ. コデインリン酸塩・ジヒドロコデインリン酸塩などのオピオイド系成分
エ. アスピリンなどの解熱鎮痛成分

答え・解説

正答：ウ. コデインリン酸塩・ジヒドロコデインリン酸塩などのオピオイド系成分

超簡単な解説：コデイン・ジヒドロコデインはオピオイド系成分で鎮咳薬などに配合されるが、習慣性・依存性のリスクがある。

要点：一般用医薬品に含まれるコデインリン酸塩・ジヒドロコデインリン酸塩などのオピオイド系成分は習慣性・依存性を生…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q111

薬物依存 | ○×

問題：ベンゾジアゼピン系の睡眠改善薬は長期連用によって身体的依存が生じることがある。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：ベンゾジアゼピン系成分は依存形成のリスクがあり、連用により身体的依存が生じ中断時に反跳性不眠などの離脱症状が現れることがある。

要点：睡眠薬・抗不安薬のベンゾジアゼピン系成分（一部OTC含有）は長期使用により身体的依存が生じることがある

Q112

漢方薬の基本 | 2択

問題：漢方薬の選択において重視される概念はどれか。

選択肢

ア. 西洋医学的な確定診断に基づく病名

イ. 証（患者の体質・症状・状態の全体的な把握）

答え・解説

正答：イ. 証（患者の体質・症状・状態の全体的な把握）

超簡単な解説：漢方では患者の体質・体力・症状・舌象・脈象などを総合した「証」に基づいて処方を選択する。

要点：漢方薬は複数の生薬を組み合わせた処方であり、西洋医学的な病名よりも「証（しょう）」という患者の状態に基づい…

Q113

漢方薬の基本 | 4択

問題：漢方の「虚証」と「実証」の説明として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 虚証は急性疾患、実証は慢性疾患を指す

イ. 虚証は体力虚弱な状態、実証は体力充実した状態を指す

ウ. 虚証は症状が軽い状態、実証は症状が重い状態を指す

エ. 虚証・実証は年齢によってのみ決まる

答え・解説

正答：イ. 虚証は体力虚弱な状態、実証は体力充実した状態を指す

超簡単な解説：漢方の虚実は体力・抵抗力・症状の強さを示す概念。

要点：漢方薬の証には「虚証（体力虚弱）」と「実証（体力充実）」があり、処方選択の重要な基準となる

Q114

漢方薬の基本 | ○×

問題：漢方薬は天然由来であるため副作用は生じない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：漢方薬も医薬品であり副作用が生じることがある。

要点：漢方薬は天然由来の生薬を用いるが、副作用がないわけではなく、甘草（グリチルリチン酸）による偽アルドステロン…

Q115

漢方薬の基本 | 2択

問題：漢方医学における人体の三要素として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 陰・陽・中

イ. 気・血・水

答え・解説

正答：イ. 気・血・水

超簡単な解説：漢方では「気（生命エネルギー）・血（血液・栄養）・水（体液）」の三要素が人体を構成し、これらのバランスが崩れると病気が生じると考える。

要点：漢方薬の「気・血・水」は人体を構成する三要素とされ、これらのバランスが乱れると病気が生じると考える

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q116

生薬の基本 | 4択

問題：生薬の定義として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 植物・動物・鉱物などの天然物をそのまままたは簡単な加工をしたもの

イ. 医療用医薬品にのみ使用が許可された天然物由来成分

ウ. 植物のみを原料とし化学的な加工を一切行わないもの

エ. 化学合成によって製造された有効成分を植物由来の賦形剤で固めたもの

答え・解説

正答：ア. 植物・動物・鉱物などの天然物をそのまままたは簡単な加工をしたもの

超簡単な解説：生薬は植物・動物・鉱物など天然由来の素材を原料とし、乾燥・切断・粉碎などの簡単な加工を施したもの。

要点：生薬とは植物・動物・鉱物などの天然物をそのまままたは簡単な加工をしたものであり、漢方処方や単味製剤として使…

Q117

生薬の基本 | ○×

問題：カンゾウ（甘草）はグリチルリチン酸を含む生薬であり、偽アルドステロン症の原因となることがある。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：カンゾウはグリチルリチン酸を含む生薬で、大量または長期使用で偽アルドステロン症（低K血症・血圧上昇・むくみ）が生じることがある。

要点：カンゾウ（甘草）はマメ科植物の根・根茎を基原とする生薬で、グリチルリチン酸を含み多くの漢方処方に配合される

Q118

生薬の基本 | 2択

問題：マオウ（麻黄）の主な有効成分と注意すべき疾患の組み合わせとして正しいものはどれか。

選択肢

ア. グリチルリチン酸を含み、腎臓疾患・むくみに注意

イ. エフェドリンを含み、心臓疾患・高血圧・甲状腺疾患に注意

答え・解説

正答：イ. エフェドリンを含み、心臓疾患・高血圧・甲状腺疾患に注意

超簡単な解説：マオウはエフェドリン（交感神経刺激薬）を含むため、心臓疾患・高血圧・甲状腺疾患・緑内障・前立腺肥大の人には注意が必要。

要点：マオウ（麻黄）はエフェドリンを含む生薬で、交感神経刺激作用を持ち心臓疾患・高血圧・甲状腺疾患の人には注意が…

Q119

生薬の基本 | 4択

問題：ダイオウ（大黄）の主な薬理作用はどれか。

選択肢

ア. 気管支を拡張する気管支拡張作用

イ. 血圧を下げる降圧作用

ウ. 大腸を刺激する瀉下（下剤）作用

エ. 解熱・鎮痛・抗炎症作用

答え・解説

正答：ウ. 大腸を刺激する瀉下（下剤）作用

超簡単な解説：ダイオウはセンノシドなどアントラキノン誘導体を含み、大腸を刺激して蠕動運動を促進する瀉下作用がある。

要点：ダイオウ（大黄）は大腸刺激性下剤の成分センノシドを含む生薬で、強い瀉下（下剤）作用を持つ

Q120

医薬品の保管・廃棄 | ○×

問題：医薬品は高温・多湿・直射日光を避け、小児の手の届かない場所に保管することが重要である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：医薬品の品質維持のため高温・多湿・直射日光を避けた保管が基本。

要点：医薬品は高温・多湿・直射日光を避けて保管することが基本であり、小児の手の届かない場所に保管する

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q121

医薬品の保管・廃棄 | 2択

問題：不要になった医薬品の廃棄方法として適切なものはどれか。

選択肢

- ア. 市区町村の廃棄方法に従い適切に廃棄する
イ. トイレに流して廃棄する

答え・解説

正答：ア. 市区町村の廃棄方法に従い適切に廃棄する

超簡単な解説：医薬品をトイレや排水溝に流すと水環境汚染を招くおそれがある。

要点：家庭で不要になった医薬品は市区町村の廃棄方法に従い適切に廃棄し、トイレや排水溝への投棄は環境汚染を招くため…

Q122

医薬品の保管・廃棄 | 4択

問題：冷所保存が指定された医薬品の保管として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 冷蔵庫（2～15℃）に保管するが凍結させてはならない
イ. 冷凍庫で凍結保存する
ウ. 直射日光が当たらなければ保管方法は問わない
エ. 冷暗所であれば室温でも問題ない

答え・解説

正答：ア. 冷蔵庫（2～15℃）に保管するが凍結させてはならない

超簡単な解説：冷所保存は通常2～15℃の冷蔵保管を意味する。

要点：冷所保存が指定された医薬品（点眼剤・一部の液剤など）は冷蔵庫で保管するが、凍結させてはならない

Q123

小児・高齢者への配慮 | ○×

問題：小児への医薬品用量は成人量を体重比で単純換算すれば常に適切である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：小児は体重換算だけでなく体表面積・臓器の成熟度・腸内細菌叢の違いなども影響するため、単純な体重換算だけでは不十分な場合がある。

要点：小児への医薬品使用において、体重換算での用量設定が一般的だが、体重あたりの体表面積が成人より大きいことも考…

Q124

小児・高齢者への配慮 | 2択

問題：小児のウイルス感染症（水痘・インフルエンザ）時にアスピリンを使用するとどのような重篤な副作用が生じるおそれがあるか。

選択肢

- ア. スティーブンス・ジョンソン症候群（皮膚粘膜眼症候群）
イ. ライ症候群（脳症・肝臓障害）

答え・解説

正答：イ. ライ症候群（脳症・肝臓障害）

超簡単な解説：15歳未満の小児がウイルス感染症罹患中にアスピリンを服用するとライ症候群（急性脳症・肝臓障害）を生じるリスクがある。

要点：15歳未満の小児にアスピリンを使用するとライ症候群（脳症・肝臓障害）を引き起こすことがあるため、水痘・イン…

Q125

小児・高齢者への配慮 | 4択

問題：高齢者がOTC薬を購入する際に特に確認すべき事項として最も重要なものはどれか。

選択肢

- ア. 現在服用している医療用医薬品との相互作用
イ. 医薬品の製造メーカー
ウ. 店舗のポイント還元率
エ. 医薬品の価格と経済的負担

答え・解説

正答：ア. 現在服用している医療用医薬品との相互作用

超簡単な解説：高齢者は多剤服用が多く（ポリファーマシー）、処方薬とOTC薬の相互作用や成分重複が生じやすい。

要点：高齢者は複数の医薬品を服用することが多く（ポリファーマシー）、OTC薬の購入時も服用中の薬の確認が重要

Q126

妊婦・授乳婦への配慮 | ○×

問題：妊娠初期（器官形成期）は胎児の器官形成が行われる時期であり、薬物による催奇形性のリスクが最も高い時期である。

選択肢
○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：妊娠4～7週ごろが器官形成の感受性期（絶対過敏期）であり、この時期の薬物暴露が催奇形性のリスクが最も高い。

要点：妊娠初期（器官形成期）は胎児の器官が形成される時期であり、この時期に薬物が影響すると催奇形性のリスクが最も…

Q127

妊婦・授乳婦への配慮 | 2択

問題：授乳婦が医薬品を使用する際の注意点として正しいものはどれか。

選択肢
ア. 医薬品成分が母乳に移行して乳児に影響を与える可能性がある
イ. 母乳は胎盤と異なり薬物成分が移行しないため問題ない

答え・解説

正答：ア. 医薬品成分が母乳に移行して乳児に影響を与える可能性がある

超簡単な解説：授乳婦が服用した薬は乳汁に移行し、授乳を通じて乳児に影響することがある。

要点：授乳中に服用した医薬品は母乳に移行することがあり、母乳を介して乳児に影響を与えることがある

Q128

薬害の歴史 | 4択

問題：「医薬品は両刃の剣」という表現が意味することとして最も適切なものはどれか。

選択肢
ア. 医薬品には必ず代替品があること
イ. 医薬品の効果は使用者によって正反対になること
ウ. 医薬品は外用と内服の両方の用途があること
エ. 治療効果という有益な面と副作用という有害な面の両面を持つこと

答え・解説

正答：エ. 治療効果という有益な面と副作用という有害な面の両面を持つこと

超簡単な解説：「両刃の剣」は医薬品が治療に役立つ有益な側面と副作用という有害な側面の両方を持つことを示す比喩表現。

要点：薬害の教訓として「医薬品は両刃の剣」という概念があり、有益な作用（治療効果）と有害な作用（副作用）の両面を…

Q129

薬害の歴史 | ○×

問題：サリドマイドによる催奇形性の主な症状は四肢の奇形（アザラシ肢症）であった。

選択肢
○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：サリドマイドはS体による血管新生阻害作用が催奇形性の原因とされ、四肢が短縮・欠損するアザラシ肢症（海豹肢症）を引き起こした。

要点：サリドマイド薬害ではS体の催奇形性により四肢奇形（アザラシ肢症）を持つ児が多数生まれ、世界的な問題となった

Q130

薬害の歴史 | 2択

問題：薬害エイズ（薬害HIV）事件において、問題となった製品はどれか。

選択肢
ア. キノホルム含有整腸剤
イ. 非加熱血液製剤（HIV汚染）

答え・解説

正答：イ. 非加熱血液製剤（HIV汚染）

超簡単な解説：薬害エイズは非加熱血液製剤によるもの。

要点：薬害HIV（薬害エイズ）事件は1980年代に生じ、非加熱血液製剤の製造販売を継続した製薬企業と厚生省（当時…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q131

医薬品の情報提供 | 4択

問題：登録販売者が情報提供を行う際の基本姿勢として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. どの購入者にも同じマニュアル通りの情報を一律に提供する
イ. 購入者の症状・既往歴・年齢・服用中の薬などを確認したうえで適切な情報…
ウ. 情報提供は薬剤師の業務であり登録販売者には義務がない
エ. 情報提供は購入者から求められた場合のみ行えばよい

答え・解説

正答：イ. 購入者の症状・既往歴・年齢・服用中の薬などを確認したうえで適切な情報を提供する

超簡単な解説：登録販売者は購入者の個別状況（症状・既往歴・年齢・妊娠・服用中の薬など）を確認したうえで、その人に最適な情報を提供することが求められる。

要点：登録販売者は購入者が医薬品を選択・使用する際に必要な情報を適切に提供する義務があり、情報提供は購入者の状況…

Q132

医薬品の情報提供 | ○×

問題：添付文書の内容は一度制定されると改訂されることはないため、初版で十分な情報が得られる。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：添付文書は新たな副作用情報・使用上の注意の変更などにより定期的に改訂される。

要点：添付文書の改訂情報は定期的に確認する必要がある、PMDAのウェブサイトや医薬品安全性情報などで最新版を確認…

Q133

医薬品の情報提供 | 2択

問題：緊急安全性情報（イエローレター）の説明として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 一般消費者向けに新薬の効能・効果を広報する文書
イ. 重大な安全性情報を医療関係者等に直接配布する緊急の文書

答え・解説

正答：イ. 重大な安全性情報を医療関係者等に直接配布する緊急の文書

超簡単な解説：緊急安全性情報（イエローレター）は重大な安全性問題が判明した際に厚生労働省の指示のもと製造販売業者が医療関係者等に直接配布する文書。

要点：医薬品の緊急安全性情報（イエローレター）は重大な安全性情報を医薬品・医療機器業者等に直接配布する文書

Q134

医薬品の情報提供 | 4択

問題：安全性速報（ブルーレター）について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 緊急安全性情報（イエローレター）より緊急性は低い重要な安全性情報を…
イ. 新薬の承認情報を医療機関に知らせる文書
ウ. 一般消費者に対して副作用情報を直接知らせる文書
エ. 緊急安全性情報（イエローレター）より緊急性が高い最重要情報を伝える文書

答え・解説

正答：ア. 緊急安全性情報（イエローレター）より緊急性は低い重要な安全性情報を伝える文書

超簡単な解説：ブルーレターはイエローレター（緊急安全性情報）より緊急性・重大性は低いが速やかに伝達が必要な安全性情報を伝える文書。

要点：安全性速報（ブルーレター）は緊急安全性情報より緊急性は低い、重要な安全性情報を医療関係者等に伝達する文書

Q135

重篤な副作用 | ○×

問題：横紋筋融解症の特徴的な症状として、筋肉痛・脱力感・赤褐色尿がある。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：横紋筋融解症は筋肉細胞が崩壊する重篤な副作用。

要点：横紋筋融解症はスタチン系薬などで生じる重篤な副作用で、筋肉痛・脱力・赤褐色尿（ミオグロビン尿）が特徴的症状

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q136

重篤な副作用 | 2択

問題：薬剤性血小板減少症の主な症状はどれか。

選択肢

ア. 尿量減少・むくみ・倦怠感

イ. 鼻血・歯茎からの出血・皮膚の紫斑（あざ）

答え・解説

正答：イ. 鼻血・歯茎からの出血・皮膚の紫斑（あざ）

超簡単な解説：血小板減少では血液凝固が障害されるため出血傾向（鼻出血・歯肉出血・紫斑・瘀血）が生じる。

要点：血小板減少症は医薬品の副作用として生じることがあり、鼻血・歯茎からの出血・皮下出血（紫斑）などの症状が現れる

Q137

重篤な副作用 | 4択

問題：無菌性髄膜炎の主な症状として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 黄疸・褐色尿・倦怠感

イ. 筋肉痛・脱力・赤褐色尿

ウ. 頭痛・発熱・嘔吐・項部硬直

エ. 空咳・息切れ・微熱

答え・解説

正答：ウ. 頭痛・発熱・嘔吐・項部硬直

超簡単な解説：無菌性髄膜炎は細菌以外（薬剤・ウイルスなど）が原因の髄膜炎で、頭痛・発熱・嘔吐・項部硬直（首の硬さ）が三徴。

要点：無菌性髄膜炎は医薬品の副作用として生じることがあり、頭痛・発熱・吐き気・項部硬直などの症状を示す

Q138

アレルギー | ○×

問題：薬疹は医薬品による皮膚副作用の中で最も頻度が高い副作用の一つである。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：薬疹は医薬品による皮膚症状（発疹・発赤・かゆみなど）で、薬剤性の皮膚障害の中で最も一般的。

要点：薬疹は医薬品によって生じる皮膚の発疹であり、薬剤性の皮膚症状の中で最も頻度が高い副作用の一つ

Q139

アレルギー | 2択

問題：光線過敏症（光アレルギー反応）の特徴として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 暗所でのみ発症し日光には関係なく生じる

イ. 医薬品成分が紫外線と反応して日光にさらされた部位に皮膚炎が生じる

答え・解説

正答：イ. 医薬品成分が紫外線と反応して日光にさらされた部位に皮膚炎が生じる

超簡単な解説：光線過敏症は薬剤成分が紫外線と反応して日光暴露部位（顔・腕など）に皮膚炎が生じる副作用。

要点：光線過敏症（光アレルギー）は医薬品成分が紫外線と反応して皮膚炎を生じる副作用で、日光にさらされる部位に症状…

Q140

アレルギー | 4択

問題：外用薬・貼付剤による接触皮膚炎の種類として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 全身性接触皮膚炎と局所性接触皮膚炎の2種類

イ. アレルギー性接触皮膚炎と刺激性接触皮膚炎の2種類

ウ. 急性接触皮膚炎と慢性接触皮膚炎の2種類

エ. 感染性接触皮膚炎と非感染性接触皮膚炎の2種類

答え・解説

正答：イ. アレルギー性接触皮膚炎と刺激性接触皮膚炎の2種類

超簡単な解説：接触皮膚炎は①免疫反応によるアレルギー性（感作が必要）と②物質の直接刺激による刺激性の2種類。

要点：接触皮膚炎（かぶれ）は外用薬・貼付剤の使用部位に生じる皮膚炎で、アレルギー性と刺激性の2種類がある

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q141

医薬品の適正使用 | ○×

問題：OTC薬の販売時に購入者の年齢・症状・服用中の薬などを確認することは、適切な医薬品選択と安全使用につながる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：購入者情報の確認は適切な医薬品選択・用量設定・禁忌確認・相互作用防止のために不可欠であり、登録販売者の重要な業務の一つ。

要点：OTC薬の販売時には購入者の状況（症状・年齢・妊娠・既往歴・服用中の薬）を確認し、状況に応じた情報提供また…

Q142

医薬品の適正使用 | 2択

問題：医薬品の誤飲・過量服用時の対応として適切なものはどれか。

選択肢

ア. 医療機関受診または中毒情報センターへ相談する

イ. 様子を見て症状が悪化してから受診する

答え・解説

正答：ア. 医療機関受診または中毒情報センターへ相談する

超簡単な解説：医薬品の誤飲・過量服用時はすぐに医療機関を受診するか、中毒情報センター（公益財団法人日本中毒情報センター）へ相談し適切な処置を受ける。

要点：医薬品の過量服用・誤用（子どもの誤飲など）は健康被害を招くことがあり、万一の場合は中毒情報センターへの問い…

Q143

高齢者への配慮 | 4択

問題：高齢者の服薬における問題点として最も適切なものはどれか。

選択肢

ア. 免疫機能が高いためアレルギー副作用が生じにくい

イ. 腸管吸収率が向上するため過量摂取になりやすい

ウ. 身体機能低下による飲み間違い・飲み忘れなどアドヒアランス低下

エ. 若年者より薬物代謝が速いため効果が不十分になりやすい

答え・解説

正答：ウ. 身体機能低下による飲み間違い・飲み忘れなどアドヒアランス低下

超簡単な解説：高齢者は視力低下・認知機能低下・手指機能低下などにより飲み間違い・飲み忘れが生じやすい（アドヒアランス低下）。

要点：高齢者は身体機能の低下に伴い、医薬品の飲み間違い・飲み忘れなど服薬アドヒアランスの問題が生じやすい

Q144

医薬品の本質 | ○×

問題：一般用医薬品は医師の診断なしに使用できるため、添付文書を読む必要はない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：医師の管理がない分、使用者自身が添付文書で使用する注意・禁忌・用法用量を確認し適切に使用することが一般用医薬品では特に重要。

要点：一般用医薬品は医師の診断なしに使用されるため、使用者自身が添付文書をよく読み症状・年齢・他の疾患に合った選…

Q145

医薬品の販売制度 | 2択

問題：卸売販売業の販売対象として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 薬局・病院・診療所など医薬品を業として使用する事業者

イ. 一般消費者（患者・生活者）

答え・解説

正答：ア. 薬局・病院・診療所など医薬品を業として使用する事業者

超簡単な解説：卸売販売業は薬局・医療機関・製造販売業者などに医薬品を販売する業態。

要点：卸売販売業は医薬品を薬局・病院・医師など医薬品を業として使用する者に販売・授与する業態であり、一般消費者へ…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q146

医薬品の販売制度 | 4択

問題：薬局医薬品に含まれるものとして正しいものはどれか。

選択肢

ア. 一般用医薬品と要指導医薬品
イ. 第1類医薬品と第2類医薬品
ウ. 医療用医薬品と要指導医薬品
エ. 要指導医薬品と第1類医薬品

答え・解説

正答：ウ. 医療用医薬品と要指導医薬品

超簡単な解説：薬局医薬品＝医療用医薬品＋要指導医薬品。

要点：薬局医薬品は医療用医薬品と要指導医薬品を合わせた概念であり、一般用医薬品とは区別される

Q147

薬物動態 | ○×

問題：同じ有効成分を含む医薬品であっても、剤形（錠剤・液剤・貼付剤など）が異なると吸収速度が異なることがある。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：剤形によって吸収速度は大きく異なる。

要点：薬物の吸収速度は剤形・投与部位・血流量・pHなどの要因に影響され、同じ有効成分でも剤形が異なると吸収が異なる

Q148

医薬品の情報提供 | 2択

問題：副作用報告制度における報告先はどこか。

選択肢

ア. 厚生労働大臣（実際にはPMDA経由）
イ. 都道府県知事

答え・解説

正答：ア. 厚生労働大臣（実際にはPMDA経由）

超簡単な解説：副作用等報告は厚生労働大臣宛（実務はPMDAが窓口）に行う。

要点：医薬品・医療機器等安全性情報報告制度（旧：副作用報告制度）により、医薬関係者（薬剤師・登録販売者等）は副作…

Q149

医薬品の適正使用 | 4択

問題：医薬品の適正使用のために購入者に求められる基本的な行動として最も重要なものはどれか。

選択肢

ア. 価格が高い医薬品ほど効果が高いため積極的に選択する
イ. なるべく多くの種類の医薬品を組み合わせる
ウ. 症状が改善しても処方された期間は服用を続ける
エ. 添付文書をよく読み用法・用量・使用上の注意を守って使用する

答え・解説

正答：エ. 添付文書をよく読み用法・用量・使用上の注意を守って使用する

超簡単な解説：適正使用の基本は添付文書の確認と遵守。

要点：医薬品の適正使用のためには、購入者自身が自分の症状を正確に把握し、用法・用量・使用上の注意を守ることが基本

Q150

医薬品の本質 | ○×

問題：同じ医薬品でも使用量・使用方法・使用者の状態によって、有益な効果にも有害な影響にもなりうる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：「薬は毒にも薬にもなる」は医薬品の本質を端的に示す概念。

要点：「薬は毒にも薬にもなる」という概念は、用量・使用方法・使用者の状態によって有益にも有害にもなりうる医薬品の…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q151

薬物動態 | 4択

問題：医薬品の体内分布に影響する因子として誤っているものはどれか。

選択肢

ア. 血中タンパクへの結合率
イ. 臓器・組織への血流量
ウ. 医薬品の色（製剤の着色）
エ. 薬物の脂溶性

答え・解説

正答：ウ. 医薬品の色（製剤の着色）

超簡単な解説：体内分布に影響するのは血流量・タンパク結合率・脂溶性・分子量など薬物の物理化学的性質や生理的要因。

要点：医薬品の分布とは吸収された薬物が血液循環を通じて各組織・臓器へ移行する過程であり、臓器への移行量は血流量・…

Q152

薬物動態 | ○×

問題：薬物代謝の第Ⅰ相反応には酸化・還元・加水分解が含まれ、主に肝臓で行われる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：薬物代謝は第Ⅰ相（酸化・還元・加水分解：主にCYP酵素）と第Ⅱ相（グルクロン酸抱合・硫酸抱合など）の2段階で進み、主に肝臓で行われる。

要点：薬物代謝には第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）と第Ⅱ相反応（抱合）があり、主に肝臓で行われる

Q153

薬物動態 | 2択

問題：腸肝循環の説明として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 小腸で吸収された薬物が門脈を通じて肝臓に初めて達する過程
イ. 胆汁中に排泄された薬物が腸管で再吸収され肝臓に戻る循環

答え・解説

正答：イ. 胆汁中に排泄された薬物が腸管で再吸収され肝臓に戻る循環

超簡単な解説：腸肝循環は薬物の体内滞留時間を延長する。

要点：腸肝循環とは胆汁中に分泌された薬物代謝物が腸管で再吸収されて肝臓に戻る循環であり、薬物の体内滞留時間を延長…

Q154

薬物動態 | 4択

問題：薬物の排泄経路として誤っているものはどれか。

選択肢

ア. 胆汁・糞便
イ. 骨（骨中への永久沈着が主な排泄経路）
ウ. 呼吸・汗
エ. 腎臓（尿）

答え・解説

正答：イ. 骨（骨中への永久沈着が主な排泄経路）

超簡単な解説：骨は一部の薬物（鉛・フッ素など）が蓄積することはあるが「主な排泄経路」ではない。

要点：薬物の排泄経路は主に腎臓（尿）だが、胆汁・糞便・呼吸・汗・母乳などからも排泄される

Q155

薬物動態 | ○×

問題：腎機能が正常な成人に比べ、腎機能が低下した患者では腎クリアランスが低下し薬物が体内に蓄積しやすい。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：腎クリアランスは腎臓が単位時間に薬物を除去できる血漿量を示す。

要点：クリアランスとは単位時間あたりに薬物が除去される血漿量を示す概念であり、腎クリアランス・肝クリアランスなど…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q156

薬効に影響する因子 | 2択

問題：薬物代謝酵素CYPに関する個人差について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. CYPには遺伝的多型性があり個人によって代謝速度が異なる
イ. CYPの活性は人種・個人によらず均一である

答え・解説

正答：ア. CYPには遺伝的多型性があり個人によって代謝速度が異なる

超簡単な解説：CYP遺伝的多型により薬物代謝速度が速い「速代謝者（EM）」と遅い「低代謝者（PM）」が存在し、同じ用量でも血中濃度・効果・副作用に個人差が生…

要点：CYP（チトクロームP450）は薬物代謝の主要酵素群であり、遺伝的多型性があるため個人によって代謝速度が異…

Q157

薬効に影響する因子 | 4択

問題：食事が医薬品の吸収に与える影響として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. すべての医薬品は食後服用で吸収が向上する
イ. 食事は医薬品の吸収に影響しない
ウ. すべての医薬品は空腹時に服用すると最も吸収が速い
エ. 食後服用で吸収が遅延する薬と食事と一緒に吸収が向上する薬があり、薬に…

答え・解説

正答：エ. 食後服用で吸収が遅延する薬と食事と一緒に吸収が向上する薬があり、薬によって異なる

超簡単な解説：食事の影響は薬によって異なる。

要点：食事のタイミングは薬物の吸収に影響し、食後服用で吸収が遅延する薬・食事と一緒に服用で吸収が向上する薬など薬…

Q158

薬効に影響する因子 | ○×

問題：習慣的に飲酒する人では、アルコールによる薬物代謝酵素の誘導により一部の医薬品の効果が減弱することがある。

選択肢

- / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：慢性飲酒でCYP2E1が誘導されると一部の薬物の代謝が促進されて効果が弱くなる。

要点：アルコール（エタノール）はCYP2E1を誘導するため、習慣的な飲酒者では一部の薬物の代謝が促進されて効果が…

Q159

薬効に影響する因子 | 2択

問題：喫煙が一部の医薬品の血中濃度に与える影響として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 喫煙は薬物の吸収を促進して血中濃度を上昇させる
イ. 薬物代謝酵素を誘導し一部の薬物の代謝を促進して血中濃度を低下させるこ…

答え・解説

正答：イ. 薬物代謝酵素を誘導し一部の薬物の代謝を促進して血中濃度を低下させることがある

超簡単な解説：喫煙によるCYP1A2誘導でテオフィリン・カフェインなどの代謝が促進し血中濃度が低下する。

要点：喫煙は薬物代謝酵素（CYP1A2など）を誘導し、テオフィリンやクロザピンなど一部の薬物の代謝を促進して血中…

Q160

薬効に影響する因子 | 4択

問題：尿のpHが薬物排泄に与える影響について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 酸性尿では酸性薬物の排泄が促進される
イ. 酸性尿ではアルカリ性薬物の排泄が促進される
ウ. 尿のpHは薬物排泄に影響しない
エ. アルカリ性尿ではアルカリ性薬物の排泄が促進される

答え・解説

正答：イ. 酸性尿ではアルカリ性薬物の排泄が促進される

超簡単な解説：イオントラッピング：酸性尿でアルカリ性薬物はイオン化↑→再吸収↓→排泄促進。

要点：酸性尿ではアルカリ性薬物の腎排泄が促進され、アルカリ性尿では酸性薬物の腎排泄が促進される（イオントラッピン…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q161

漢方薬の基本 | ○×

問題：漢方薬は複数の生薬を組み合わせることで、単味生薬とは異なる効果・安全性が得られることがある。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：漢方の「君臣佐使」の考え方のように、複数の生薬が相互に補完・制御し合うことで効果の増強・副作用の軽減などが生じる。

要点：漢方薬は複数の生薬の相互作用（相乗・相使・相畏・相殺など）を利用した処方であり、単味生薬とは異なる効果が得…

Q162

漢方薬の基本 | 2択

問題：小柴胡湯と組み合わせると間質性肺炎を引き起こすおそれがある薬剤はどれか。

選択肢

ア. アスピリン

イ. インターフェロン製剤

答え・解説

正答：イ. インターフェロン製剤

超簡単な解説：小柴胡湯＋インターフェロン製剤の組み合わせは間質性肺炎の発症リスクが高く禁忌とされる。

要点：小柴胡湯とインターフェロン製剤の併用は間質性肺炎を引き起こすことがあり、禁忌の組み合わせとして知られる

Q163

漢方薬の基本 | 4択

問題：漢方エキス製剤の説明として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 煎じ薬の煎液を濃縮・乾燥して製剤化したもので服用が容易

イ. 化学合成した生薬類似成分を配合したもの

ウ. 生薬をそのまま粉碎して錠剤にしたもの

エ. 西洋薬の有効成分を漢方理論に基づいて調合したもの

答え・解説

正答：ア. 煎じ薬の煎液を濃縮・乾燥して製剤化したもので服用が容易

超簡単な解説：漢方エキス製剤は煎じ薬の煎液を濃縮乾燥（噴霧乾燥など）して顆粒・錠剤などに製剤化したもの。

要点：漢方薬のエキス製剤は煎じ薬の煎液を乾燥・粉末化したものであり、手軽に服用できるが煎じ薬と全く同等ではない場…

Q164

生薬の基本 | ○×

問題：ブシ（附子）はトリカブト由来の生薬であり、適切に処理・使用すれば薬効があるが過量では毒性を示す。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：ブシ（附子）はトリカブト（Aconitum属）の根を加熱・炮製等で減毒処理した生薬。

要点：ブシ（附子）はトリカブトの根を減毒処理した生薬で、鎮痛・強心・温熱作用があるが過量では毒性を示す

Q165

生薬の基本 | 2択

問題：センナ・アロエ・ダイオウに共通する薬理作用はどれか。

選択肢

ア. 小腸での水分吸収を促進する吸収性下剤作用

イ. アントラキノン誘導体による大腸刺激性瀉下作用

答え・解説

正答：イ. アントラキノン誘導体による大腸刺激性瀉下作用

超簡単な解説：センナ・アロエ・ダイオウはすべてアントラキノン誘導体を含む大腸刺激性下剤。

要点：センナ・アロエ・ダイオウはいずれもアントラキノン誘導体を含む大腸刺激性の瀉下薬（下剤）成分で、妊婦への使用…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q166

生薬の基本 | 4択

問題：次の生薬のうち、主に滋養強壮目的に使用されるものはどれか。

選択肢

- ア. カンゾウ（甘草）
イ. コウジン（紅参・人参の根を蒸したもの）
ウ. マオウ（麻黄）
エ. ダイオウ（大黄）

答え・解説

正答：イ. コウジン（紅参・人参の根を蒸したもの）

超簡単な解説：コウジン（紅参）は朝鮮人参の根を蒸したもので滋養強壮・強壮作用がある。

要点：サンザシ・コウジン（紅参）などの強壮・滋養作用を持つ生薬は、滋養強壮保健薬に配合されることがある

Q167

重篤な副作用 | ○×

問題：再生不良性貧血では赤血球・白血球・血小板のすべてが減少し、疲労感・動悸・出血傾向などが現れる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：再生不良性貧血（aplastic anemia）は骨髄の造血幹細胞が障害される疾患で汎血球減少（赤血球↓・白血球↓・血小板↓）が生じる。

要点：再生不良性貧血は骨髄の造血機能が障害されて赤血球・白血球・血小板すべてが減少する重篤な副作用で、疲労感・動...

Q168

重篤な副作用 | 2択

問題：薬剤性ループスの主な症状はどれか。

選択肢

- ア. 関節痛・皮疹・発熱などの全身性エリテマトーデス様症状
イ. 尿量減少・むくみ・高血圧などの腎障害症状

答え・解説

正答：ア. 関節痛・皮疹・発熱などの全身性エリテマトーデス様症状

超簡単な解説：薬剤性ループスはプロカインアミド・ヒドララジンなど一部の薬で生じる自己免疫反応。

要点：薬剤性ループス（薬剤誘発性全身性エリテマトーデス様症状）は一部の薬物使用により自己免疫反応が誘導され関節痛...

Q169

重篤な副作用 | 4択

問題：医薬品によるQT延長・心室性不整脈（TdP）について正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 皮膚に生じる副作用で発疹・かゆみが主症状
イ. 消化管に生じる副作用で腹痛・下痢が主症状
ウ. 軽度の頻脈で自然に改善する一時的な副作用である
エ. 心筋のイオンチャネルへの影響で生じる重篤な心臓副作用で突然死の原因と...

答え・解説

正答：エ. 心筋のイオンチャネルへの影響で生じる重篤な心臓副作用で突然死の原因となりうる

超簡単な解説：QT延長はhERGチャネル阻害などにより心室再分極が遅延する状態。

要点：心室性不整脈（QT延長・TdP）は一部の医薬品が心筋のイオンチャネルに影響して生じる重篤な心臓副作用で、突...

Q170

適正使用 | ○×

問題：残った医薬品は有効成分が同じであれば他の家族の同様の症状に使用しても問題ない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：医薬品は個人の症状・年齢・体重・他の疾患・服用薬などを考慮して選択されるため、他人（家族であっても）への流用は適切ではない。

要点：医薬品の残薬管理は適正使用の観点から重要であり、残薬は他人への譲渡・廃棄を適切に行い、古い薬を使い続けるこ...

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q171

適正使用 | 2択

問題：一般用医薬品使用後に重大な副作用が疑われる症状が現れた場合の対応として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 一般用医薬品は副作用報告の対象外であるため報告不要
イ. 使用を中止して医療機関を受診し、必要に応じて副作用報告を行う

答え・解説

正答：イ. 使用を中止して医療機関を受診し、必要に応じて副作用報告を行う

超簡単な解説：一般用医薬品も副作用報告制度の対象。

要点：一般用医薬品でも重大な副作用が発生した場合、製造販売業者への連絡と医療機関への受診が必要であり、副作用報告…

Q172

医薬品の販売制度 | 4択

問題：薬局開設の許可権者として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 厚生労働大臣
イ. 保健所長
ウ. 日本薬剤師会会長
エ. 都道府県知事（政令市は市長・特別区は区長）

答え・解説

正答：エ. 都道府県知事（政令市は市長・特別区は区長）

超簡単な解説：薬局の開設許可は都道府県知事（政令市・特別区では市長・区長）が行う。

要点：薬局開設の許可は都道府県知事（政令市は市長、特別区は区長）が行い、薬局の管理は薬剤師が行う

Q173

医薬品の販売制度 | ○×

問題：店舗販売業の許可は厚生労働大臣が行う。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：店舗販売業の許可は薬局と同様に都道府県知事（政令市は市長・特別区は区長）が行う。

要点：店舗販売業の許可は都道府県知事（政令市は市長・特別区は区長）が行い、第2類・第3類医薬品は登録販売者が販売…

Q174

医薬品の販売制度 | 2択

問題：一般用医薬品の広告において禁止されているものはどれか。

選択肢

- ア. 承認を受けていない効能効果の標榜や誇大な表示
イ. 承認された用法・用量の記載

答え・解説

正答：ア. 承認を受けていない効能効果の標榜や誇大な表示

超簡単な解説：薬機法により虚偽・誇大広告・未承認効能効果の標榜は禁止。

要点：医薬品の広告には虚偽・誇大な表示が禁止されており、未承認の効能効果や他の医薬品との比較優良広告は薬機法で規…

Q175

医薬品の販売制度 | 4択

問題：一般用医薬品のリスク区分（第1類～第3類）を指定するのは誰か。

選択肢

- ア. 日本薬剤師会
イ. 厚生労働大臣
ウ. PMDA長官
エ. 都道府県知事

答え・解説

正答：イ. 厚生労働大臣

超簡単な解説：一般用医薬品のリスク区分（第1～3類）の指定は厚生労働大臣が行う。

要点：一般用医薬品のリスク区分は医薬品の有効成分・配合量・剤形・使用方法等を勘案して厚生労働大臣が指定する

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q176

セルフメディケーション | ○×

問題：セルフメディケーション税制では、要件を満たしたスイッチOTC医薬品の購入費用が所得税の控除対象となる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：セルフメディケーション税制は健康維持・疾病予防の取り組みを行う人が対象スイッチOTC薬を年間1.2万円超購入した場合、超過分（最大8.8万円）…

要点：セルフメディケーション税制（医療費控除の特例）では、条件を満たすスイッチOTC薬の購入費用が所得控除の対象…

Q177

セルフメディケーション | 2択

問題：セルフメディケーションにおける登録販売者の役割として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 購入者が医薬品を正しく選択・使用し自己の健康管理ができるよう支援する

イ. 購入者にできるだけ多くの医薬品を販売して売上を最大化する

答え・解説

正答：ア. 購入者が医薬品を正しく選択・使用し自己の健康管理ができるよう支援する

超簡単な解説：登録販売者はセルフメディケーション支援の専門家として、適切な医薬品選択・使用方法の案内・受診勧奨など購入者の健康を支援することが本来の役割。

要点：登録販売者はセルフメディケーションを支援する専門家として、購入者が自分の健康状態を適切に把握し医薬品を正し…

Q178

医薬品の本質 | 4択

問題：一般用医薬品の特性として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 処方箋が必要なため薬剤師のみが販売できる

イ. 医師が処方するため安全性は完全に保証されている

ウ. 医師の管理なしに使用されるため使用者自身の適切な判断と登録販売者等の…

エ. 一般用医薬品は効果が弱いため副作用を心配する必要はない

答え・解説

正答：ウ. 医師の管理なしに使用されるため使用者自身の適切な判断と登録販売者等の支援が重要

超簡単な解説：一般用医薬品は医師の処方・管理なしに購入・使用される。

要点：一般用医薬品は医師による処方・管理なしに使用されるため、自己判断に基づく適正使用が特に求められ、登録販売者…

Q179

薬害の歴史 | ○×

問題：薬害の根絶には被害者や市民団体の活動も重要な役割を果たしてきた。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：薬害被害者・薬害オンブズパーソン会議などの市民活動が薬事行政の改善・副作用監視体制の強化に貢献してきた。

要点：薬害オンブズパーソン会議などの市民団体が薬害被害者とともに薬害根絶を訴え、薬事行政の改善に貢献してきた

Q180

薬害の歴史 | 2択

問題：イレッサ（ゲフィチニブ）薬害の主な副作用はどれか。

選択肢

ア. 催奇形性

イ. 間質性肺炎

答え・解説

正答：イ. 間質性肺炎

超簡単な解説：イレッサ（ゲフィチニブ）は肺がんの分子標的薬で、間質性肺炎による多数の死亡者が生じた。

要点：イレッサ（ゲフィチニブ）薬害では肺がん治療薬の間質性肺炎副作用により多数の死亡者が生じ、市販後の安全対策の…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q181

医薬品のリスク評価 | 4択

問題：LD50の値と毒性の強さの関係として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. LD50の値は毒性の強さと無関係である
イ. LD50が100mg/kgより大きければ安全性は完全に保証される
ウ. LD50が小さいほど少量で毒性を示すため毒性が強い
エ. LD50が大きいほど少量で毒性を示すため毒性が強い

答え・解説

正答：ウ. LD50が小さいほど少量で毒性を示すため毒性が強い

超簡単な解説：LD50が小さい＝少量で50%が死亡→毒性が強い。

要点：LD50（半数致死量）が小さいほど少ない用量で半数が死亡することを意味し、毒性が強いことを示す

Q182

医薬品のリスク評価 | ○×

問題：治療係数（LD50/ED50）の値が大きいほど有効量と毒性量の差が大きく、安全性が高いとされる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：治療係数＝LD50÷ED50。

要点：治療係数（治療指数）はLD50/ED50の比率で表され、値が大きいほど治療に使用できる用量範囲が広く安全性…

Q183

アレルギー | 2択

問題：即時型アレルギー（Ⅰ型）と遅延型アレルギー（Ⅳ型）の発症時間の違いとして正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 即時型は数分～1時間以内、遅延型は24～72時間後に発症する
イ. 即時型は24～72時間後、遅延型は数分～1時間以内に発症する

答え・解説

正答：ア. 即時型は数分～1時間以内、遅延型は24～72時間後に発症する

超簡単な解説：即時型（Ⅰ型）はIgE→マスト細胞→ヒスタミン放出の機序で投与後すぐに発症。

要点：即時型アレルギー（Ⅰ型）はIgEを介した反応で投与後数分～1時間以内に発症し、遅延型アレルギー（Ⅳ型）はT…

Q184

重篤な副作用 | 4択

問題：アナフィラキシーショック発生時の緊急処置として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 原因薬を特定するまで様子を観察する
イ. 抗ヒスタミン薬の内服と安静
ウ. 水分を多量に摂取させる
エ. アドレナリンの投与と救急車要請

答え・解説

正答：エ. アドレナリンの投与と救急車要請

超簡単な解説：アナフィラキシーショックの第一選択治療はアドレナリン（エピネフリン）筋肉内注射。

要点：ショック（アナフィラキシーショック）発生時は血圧低下・意識障害が急速に進行するため、アドレナリン自己注射（…

Q185

医薬品の情報提供 | ○×

問題：医薬品の添付文書の最新版はPMDAのウェブサイトで見ることができる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：PMDAの「医薬品医療機器情報提供ホームページ」では一般用医薬品を含むすべての医薬品の添付文書最新版を無料で閲覧・ダウンロードできる。

要点：医薬品の添付文書はPMDAのホームページ（医薬品医療機器情報提供ホームページ）で最新版を閲覧・ダウンロード…

Q186

医薬品の情報提供 | 2択

問題：特定保健用食品（トクホ）の許可を行う機関はどれか。

選択肢

- ア. 消費者庁長官
イ. 厚生労働大臣

答え・解説

正答：ア. 消費者庁長官

超簡単な解説：特定保健用食品の許可は消費者庁長官が行う。

要点：消費者庁は食品・消費者安全に関する行政を担い、特定保健用食品・機能性表示食品の許可・届出や食品表示の監視を…

Q187

健康食品 | 4択

問題：「健康食品」の法的位置づけとして正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 医薬品と同等の規制を受ける特別な食品カテゴリーである
イ. すべて消費者庁長官の許可が必要な食品である
ウ. 薬機法に基づく厳格な承認制度の対象である
エ. 法律上の定義はなく食品衛生法上は一般食品として扱われる

答え・解説

正答：エ. 法律上の定義はなく食品衛生法上は一般食品として扱われる

超簡単な解説：「健康食品」は法律上の定義がなく、食品衛生法上は一般食品。

要点：いわゆる「健康食品」には法的な定義はなく、保健機能食品（特定保健用食品・機能性表示食品・栄養機能食品）以外…

Q188

健康食品 | ○×

問題：保健機能食品（特定保健用食品・機能性表示食品・栄養機能食品）はいずれも食品であり、医薬品ではない。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：保健機能食品は一定の条件下で機能性表示が認められた食品だが、あくまでも食品であり医薬品ではない。

要点：保健機能食品には特定保健用食品・機能性表示食品・栄養機能食品の3種類があり、いずれも食品であって医薬品では…

Q189

薬効に影響する因子 | 2択

問題：薬物耐性の説明として正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 薬物アレルギーが繰り返し使用で軽減する現象
イ. 同じ薬物の繰り返し使用により同じ効果を得るのに必要な用量が増加する現象

答え・解説

正答：イ. 同じ薬物の繰り返し使用により同じ効果を得るのに必要な用量が増加する現象

超簡単な解説：耐性とは同じ薬物の反復使用で効果が減弱し同等の効果を得るために用量増加が必要になる現象。

要点：薬物耐性とは同じ薬物を繰り返し使用するうちに効果が弱まる現象であり、抗菌薬・抗ウイルス薬・鎮痛薬などで生じ…

Q190

薬効に影響する因子 | 4択

問題：タキフィラキシーについて正しいものはどれか。

選択肢

- ア. 複数の薬を同時使用したときに作用が増強する現象
イ. 長期連用によってゆっくりと薬効が減弱する現象
ウ. 薬物アレルギーが急速に発現する現象
エ. 短時間の反復投与で急速に薬効が減弱する現象

答え・解説

正答：エ. 短時間の反復投与で急速に薬効が減弱する現象

超簡単な解説：タキフィラキシーは短時間での急速な耐性形成。

要点：タキフィラキシーとは短時間の反復投与によって急速に薬効が減弱する現象であり、点鼻薬のα刺激薬（血管収縮薬）…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q191

医薬品の本質 | ○×

問題：医薬品の安全で有効な使用のためには、製品品質の確保だけでなく適切な情報提供・使用指導というサービスも重要である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：医薬品は物質（製品）としての品質に加え、適切な情報提供・相談対応・使用指導というサービスが一体となることで初めて安全有効な使用が実現する。

要点：医薬品は「物」としての品質保証だけでなく、適切な情報提供・使用指導という「サービス」が一体となって初めて安…

Q192

医薬品の本質 | 2択

問題：薬機法の正式名称として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 医薬品の適正使用及び安全対策に関する法律

イ. 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律

Q193

医薬品のリスク区分 | 4択

問題：第2類医薬品の情報提供に関する登録販売者の義務はどれか。

選択肢

ア. 情報提供は努力義務（できる限り行う）

イ. 口頭での説明のみが義務

ウ. 書面による情報提供が義務

エ. 情報提供義務はない

答え・解説

正答：ア. 情報提供は努力義務（できる限り行う）

超簡単な解説：第2類医薬品の情報提供は努力義務（してもしなくてもいいのではなく、できる限り行う義務）。

要点：第2類医薬品は副作用・相互作用などの項目で安全性上注意が必要な成分を含む医薬品で、情報提供が努力義務とされ…

Q194

医薬品のリスク区分 | ○×

問題：第3類医薬品は副作用・相互作用が全くないため、使用上の注意を守らなくても安全に使用できる。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：×

超簡単な解説：第3類医薬品もリスクが低いとはいえ副作用・相互作用はありうる。

要点：第3類医薬品は日常生活に支障をきたす程度ではないが注意が必要な副作用・相互作用がある成分を含む医薬品

Q195

副作用報告 | 2択

問題：医薬品副作用被害救済制度の運営主体はどこか。

選択肢

ア. PMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）

イ. 日本製薬団体連合会

答え・解説

正答：ア. PMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）

超簡単な解説：医薬品副作用被害救済制度はPMDA（医薬品医療機器総合機構）が運営。

要点：医薬品副作用被害救済制度はPMDAが運営し、医薬品の副作用による健康被害に対して医療費・障害年金・遺族給付…

第1科目：医薬品に共通する特性と基本的な知識

Q196

副作用報告 | 4択

問題：医薬品副作用被害救済制度の対象外となる医薬品として令和8年4月版手引きに記載されているものはどれか。

選択肢

ア. 一般用の胃腸薬

イ. 一般用の解熱鎮痛薬

ウ. 殺虫剤・殺鼠剤（人体に直接使用するものを除く）

エ. 一般用の風邪薬

答え・解説

正答：ウ. 殺虫剤・殺鼠剤（人体に直接使用するものを除く）

超簡単な解説：救済制度の対象外には殺虫剤・殺鼠剤（人体に直接使用するものを除く）・一部の抗がん剤・免疫抑制剤などが含まれる。

要点：医薬品副作用被害救済制度の対象とならない医薬品には、殺虫剤・殺鼠剤（人体に直接使用するものを除く）・抗がん…

Q197

副作用報告 | ○×

問題：医薬品副作用被害救済制度の給付申請先はPMDA（医薬品医療機器総合機構）である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：副作用被害救済の給付申請はPMDAに行う。

要点：医薬品副作用被害救済制度への給付申請はPMDAに対して行い、支給要否はPMDAが判定する

Q198

医薬品の本質 | 2択

問題：登録販売者の責務として正しいものはどれか。

選択肢

ア. 資格取得後の継続的な知識更新は義務ではない

イ. 常に最新の知識・法令を習得し誠実に職務を遂行する

答え・解説

正答：イ. 常に最新の知識・法令を習得し誠実に職務を遂行する

超簡単な解説：登録販売者は医薬品の専門家として継続的な知識更新と法令遵守が求められる。

要点：登録販売者は医薬品を取り扱う専門家として、常に最新の知識・法令を習得し、誠実に職務を遂行する責務がある

Q199

医薬品の本質 | 4択

問題：医薬品の適正使用の目的として最も適切なものはどれか。

選択肢

ア. 医薬品の販売数量を最大化すること

イ. 副作用を完全になくすこと

ウ. 医薬品の便益を最大化しリスクを最小化すること

エ. すべての疾患を市販薬で対処できるようにすること

答え・解説

正答：ウ. 医薬品の便益を最大化しリスクを最小化すること

超簡単な解説：適正使用の本質は医薬品の有益な効果（便益）を最大限に引き出しつつ副作用などのリスクを最小限に抑えること。

要点：医薬品は「使い次第で薬にも毒にもなる」という本質を持ち、適切な選択・使用・情報提供が医薬品の便益を最大化…

Q200

医薬品の本質 | ○×

問題：医薬品の安全で有効な使用には、製造者・販売者・使用者・行政が協力することが重要である。

選択肢

○ / ×

答え・解説

正答：○

超簡単な解説：医薬品安全は製造者（品質確保）・販売者（情報提供・相談対応）・使用者（適正使用）・行政（規制・監視）が役割を果たし協力することで実現する。

要点：医薬品に関わるすべての人（製造者・販売者・使用者・行政）が安全使用のために協力することで、医薬品の便益を社…